

2 将来見通し

これらの現況調査の結果をもとに、前述の「都市構造の評価に関するハンドブック」を踏まえ、本市の立地適正化計画策定に必要な項目についての評価や将来予測を行いました。将来予測にあたっては社人研の将来推計を参考にしました。

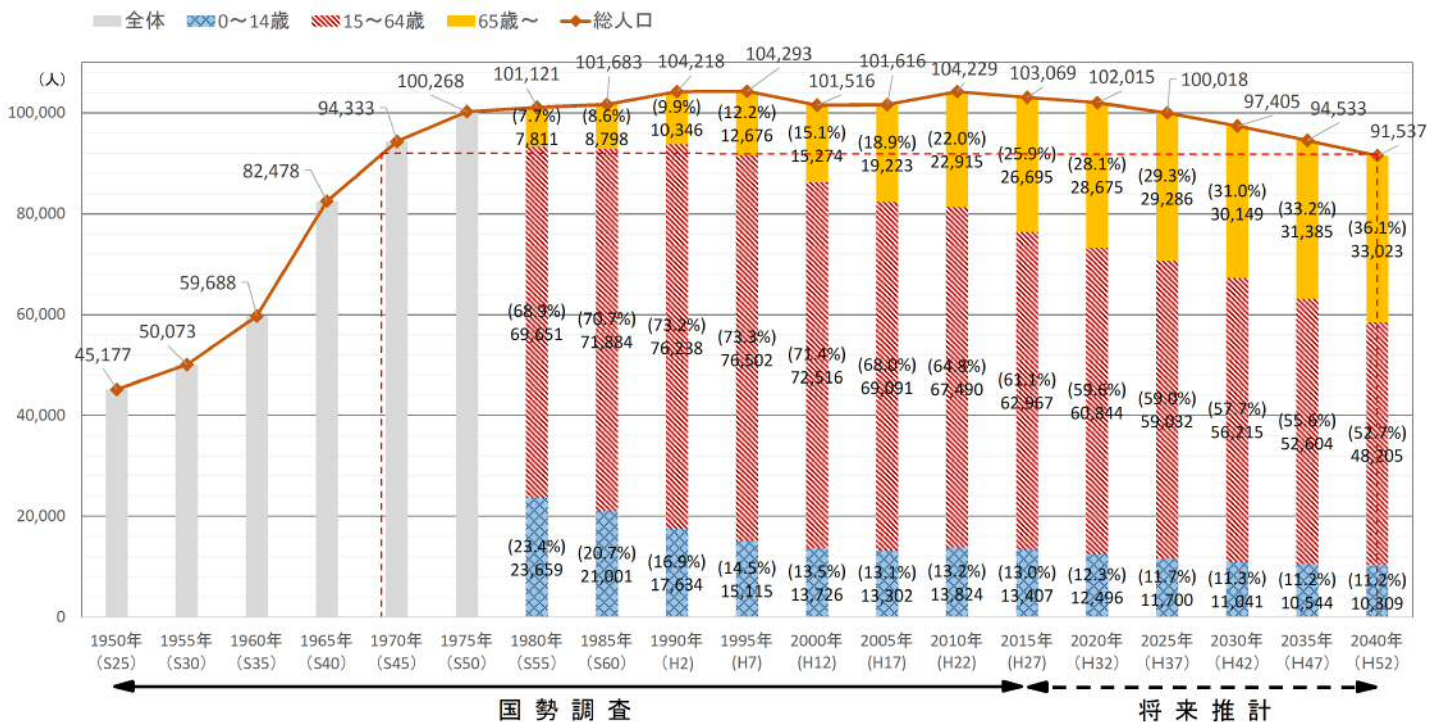
(1) 人口の将来見通し

①人口の将来推計

社人研の将来推計によれば、池田市の人口は、平成 22 (2010) 年以降減少を続け、平成 52 (2040) 年の総人口は 91,537 人と、平成 27 (2015) 年の水準から 11,532 人が減少すると予測されています。

年齢別人口で見ると、年少人口 (15 歳未満) 比率は、平成 27 (2015) 年 13.0% から平成 52 (2040) 年 11.2% に、生産年齢人口 (15 歳以上 65 歳未満) 比率は、平成 27 (2015) 年 61.1% から平成 52 (2040) 年 52.7% に、高齢者人口 (65 歳以上) 比率は、平成 27 (2015) 年 25.9% から平成 52 (2040) 年 36.1% になり、年少人口・生産年齢人口の割合が低下し、高齢化人口が増加します。

なお、平成 52 (2040) 年の総人口 91,537 人は、昭和 40 年代前半の頃の人口と同程度と言えますが、高齢化率の増加等当時の年齢構成とは大きな違いがあると言えます。



出典：国勢調査及び日本の地域別将来推計人口（平成 30 (2018) 年社人研推計）

図 1-70 池田市の人口推移～将来人口推計

将来人口の算出方法

図 1-72 から図 1-85 について、平成 27 (2015) 年においては平成 27 (2015) 年国勢調査の小地域別人口により、平成 52 (2040) 年においては以下の方法で平成 52 (2040) 年の性年齢別人口を算出することにより、人口分布を示しました。

①平成 52 (2040) 年小地域別人口の推計

- ・基準人口として、平成 27 (2015) 年国勢調査の小地域別性年齢別人口を使用
- ・将来の子ども女性比、0~4 歳性比、生残率、純移動率の仮定値として、社人研の池田市の値を使用
- ・基準人口と仮定値を用いて、コーホート要因法により平成 52 (2040) 年の小地域別性年齢別人口を推計
- ・平成 52 (2040) 年の小地域別の人口を算出

②平成 52 (2040) 年メッシュ別人口の推計

- ・各小地域内の土地利用現況「集落地」、「一般市街地」、「商業業務地」の面積比より平成 52 (2040) 年人口を按分
- ・100m メッシュに面積按分し、平成 52 (2040) 年メッシュ別人口を推計

※土地利用現況については、次ページを参照

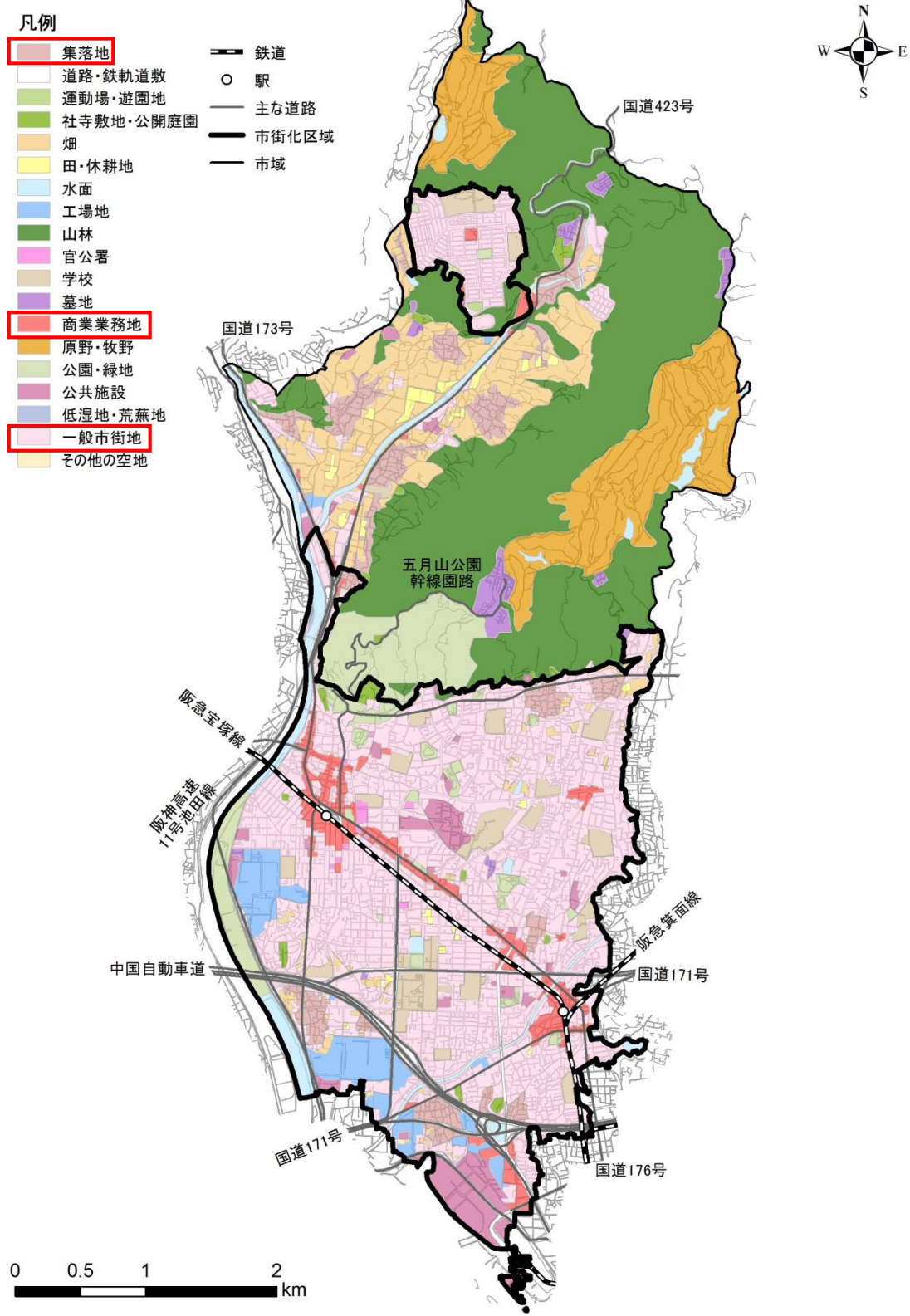
③公表値との整合

- ・「平成 52 (2040) 年メッシュ別人口 (a)」に、「市域の平成 52 (2040) 年のメッシュ別人口の合計値 (b)」が、「社人研の「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 (2018) 年 3 月推計)」の池田市全体の人口 (c)」に合致するように以下の数式により補正

$$\text{補正後の各メッシュの人口} = \text{a 補正前の各メッシュの人口} \times \frac{\text{c 市全体の将来人口}}{\text{b メッシュ別人口の合計値}}$$

- ・ただし、各メッシュ別人口が整数になるように四捨五入しているため、メッシュ別人口の合計値は市全体の将来人口とは一致しない

※メッシュ別人口の合計値「91,531 人」、市全体の将来人口「91,537 人」



出典：都市計画基礎調査

図 1-71 土地利用現況図

②人口分布の状況

平成 27 (2015) 年から平成 52 (2040) 年の人口増減率をみると、全体的に人口は減少していますが、小学校区別の傾向をみると、池田小学校区や神田小学校区では比較的減少幅が小さくなっています。(図 1-73)

平成 27 (2015) 年

平成 52 (2040) 年

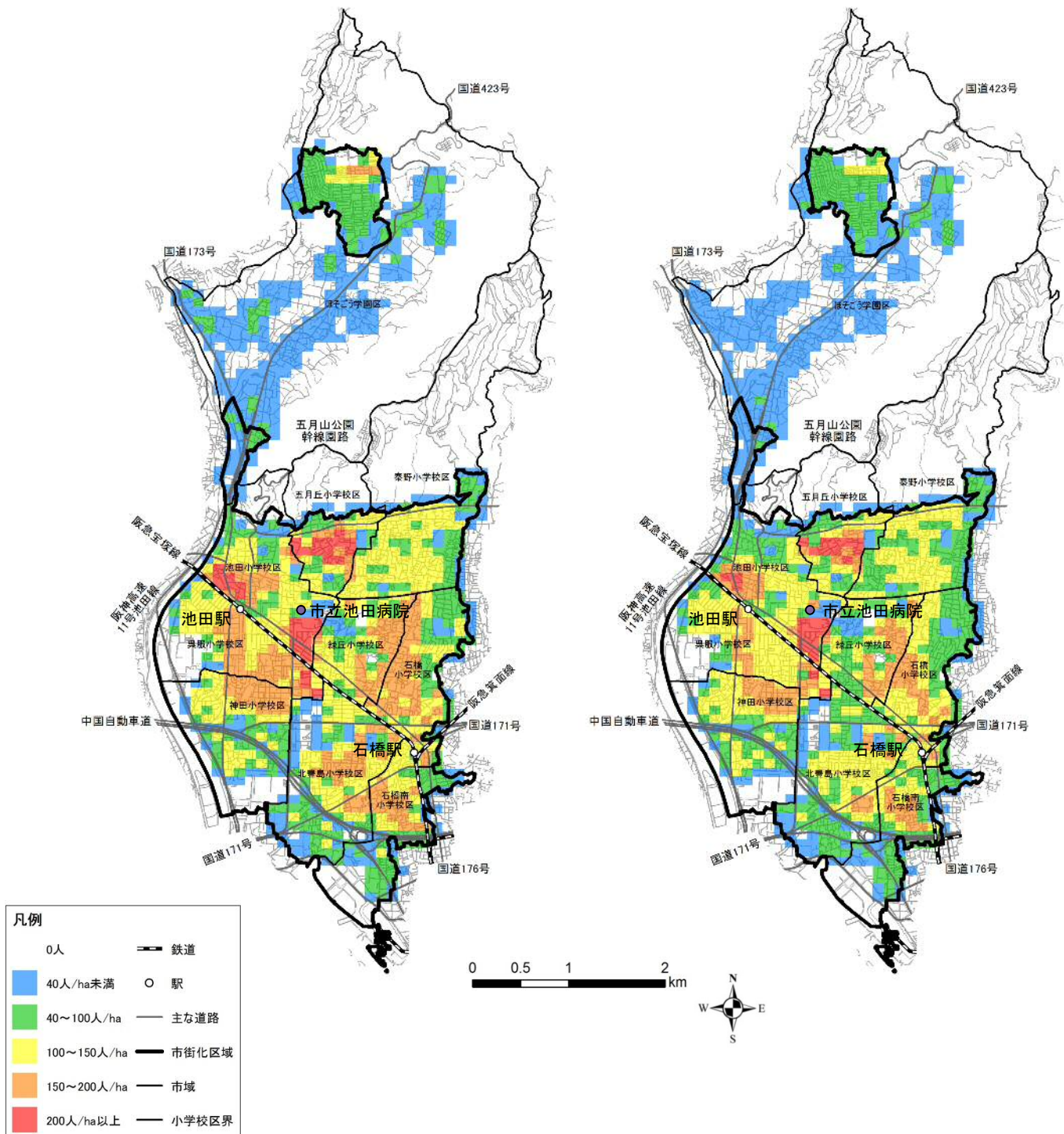
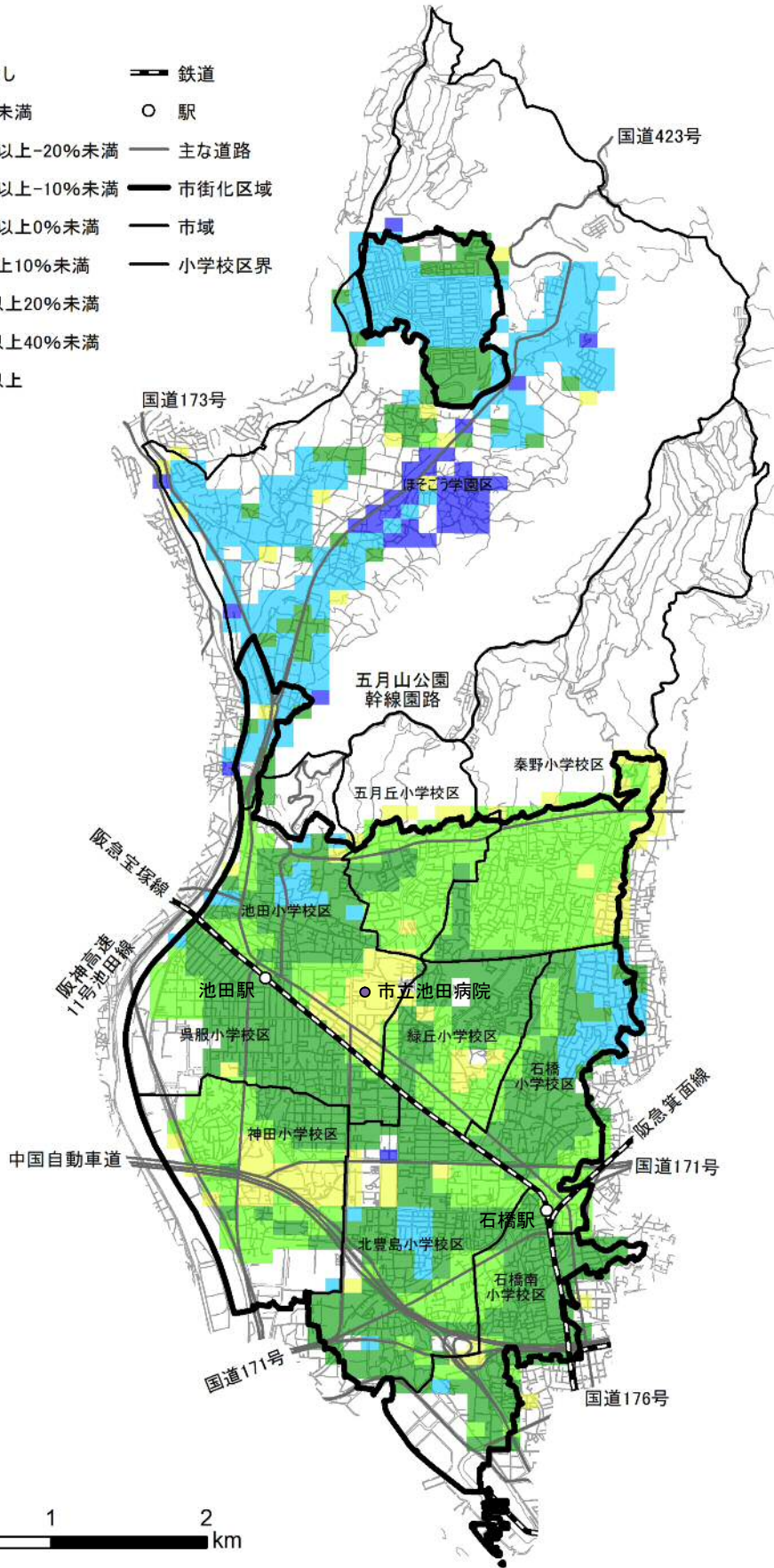


図 1-72 人口分布の状況 (平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年)

凡例

- | | |
|----------------|---------|
| 人口なし | — 鐵道 |
| ■ -40%未満 | ○ 駅 |
| ■ -40%以上-20%未満 | — 主な道路 |
| ■ -20%以上-10%未満 | — 市街化区域 |
| ■ -10%以上0%未満 | — 市域 |
| ■ 0%以上10%未満 | — 小学校区界 |
| ■ 10%以上20%未満 | |
| ■ 20%以上40%未満 | |
| ■ 40%以上 | |



0 0.5 1 2 km

图 1-73 人口増減率（平成 27（2015）年→平成 52（2040）年）

③年少（15歳未満）人口分布の状況

平成52（2040）年の年少人口分布の状況を見ると、市立池田病院周辺を除く大部分の地域で20人/ha未満となっています。（図1-74）また、平成27（2015）年から平成52（2040）年の年少人口増減率をみると、ほとんどの小学校区で減少していますが、石橋南小学校区の阪急石橋駅周辺で40%以上増加しています。（図1-75）

平成27（2015）年

平成52（2040）年

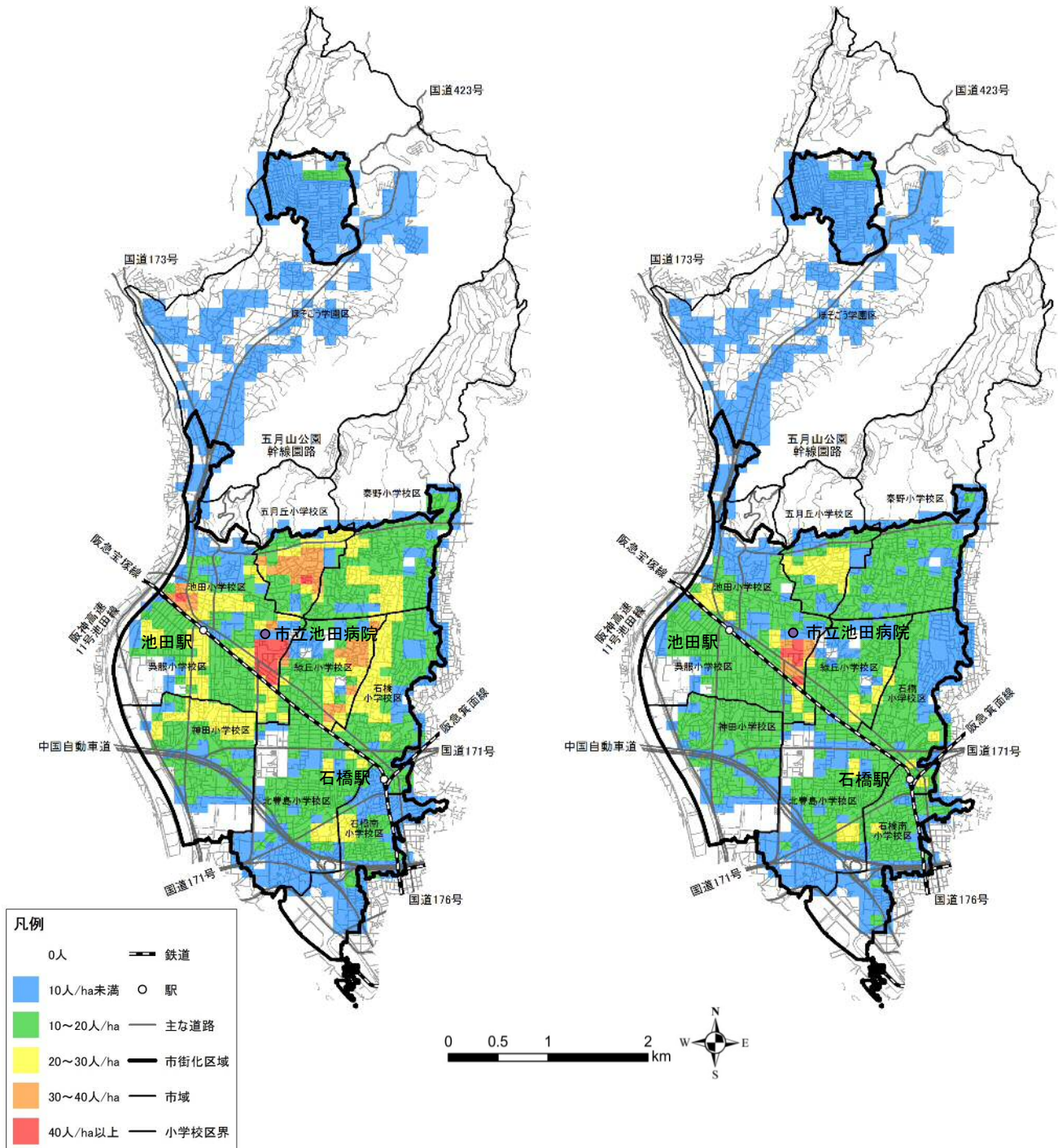


図1-74 年少（15歳未満）人口分布の状況（平成27（2015）年、平成52（2040）年）

凡例

- | | |
|----------------|---------|
| 年少人口なし | — 鉄道 |
| ■ -40%未満 | ○ 駅 |
| ■ -40%以上-20%未満 | — 主な道路 |
| ■ -20%以上-10%未満 | — 市街化区域 |
| ■ -10%以上0%未満 | — 市域 |
| ■ 0%以上10%未満 | — 小学校区界 |
| ■ 10%以上20%未満 | |
| ■ 20%以上40%未満 | |
| ■ 40%以上 | |

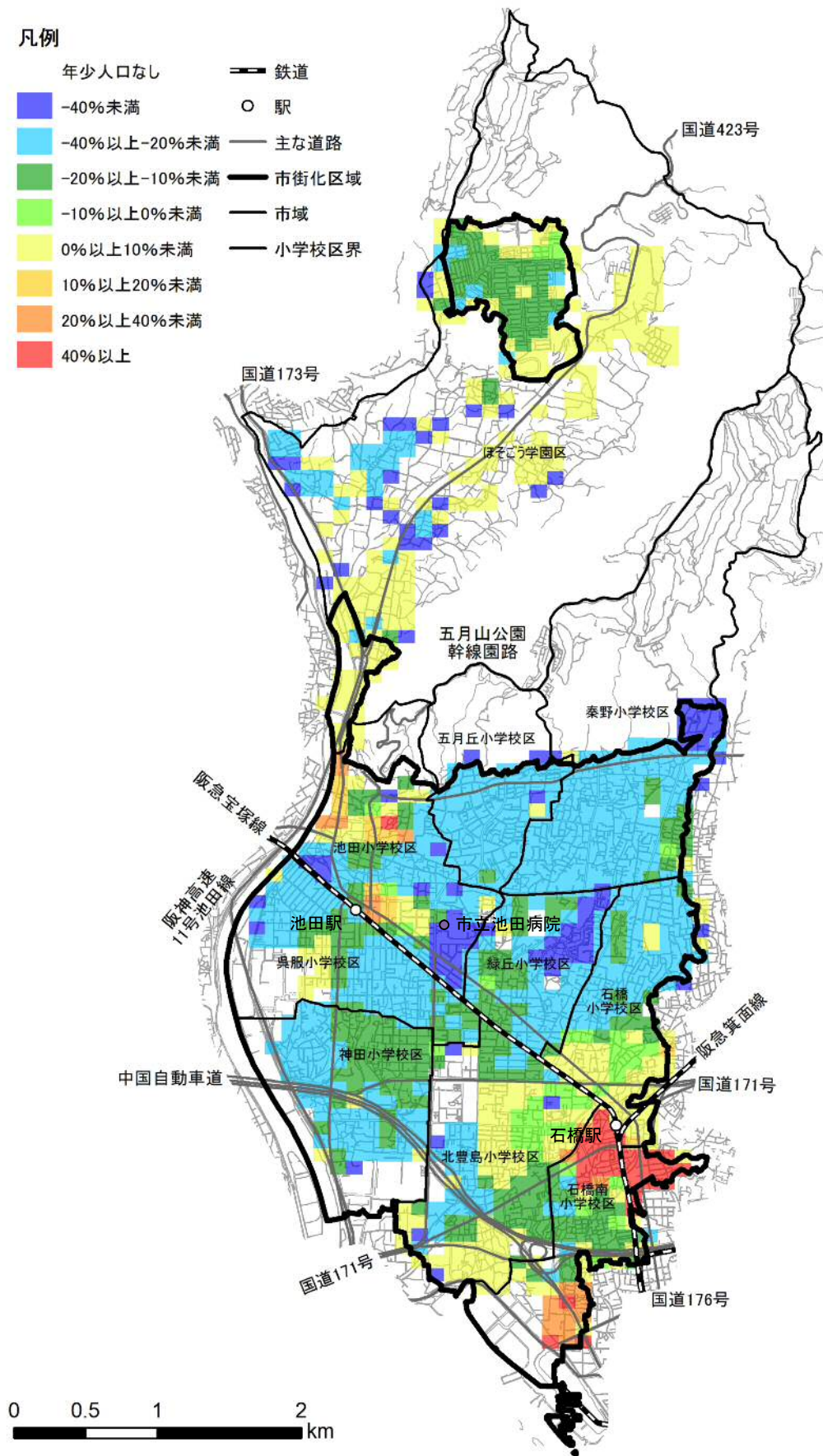


图 1-75 年少人口増減率（平成 27（2015）年→平成 52（2040）年）

④生産年齢（15歳以上65歳未満）人口分布の状況

平成52（2040）年の生産年齢人口分布の状況を見ると、100人/ha以上の地域は、市立池田病院周辺、阪急池田駅北部、五月丘小学校区の一部のみとなっています。（図1-76）また、平成27（2015）年から平成52（2040）年の生産年齢人口増減率を見ると、全小学校区で生産年齢人口は減少していますが、とりわけ、ほそごう学園区で顕著です。（図1-77）

平成27（2015）年

平成52（2040）年

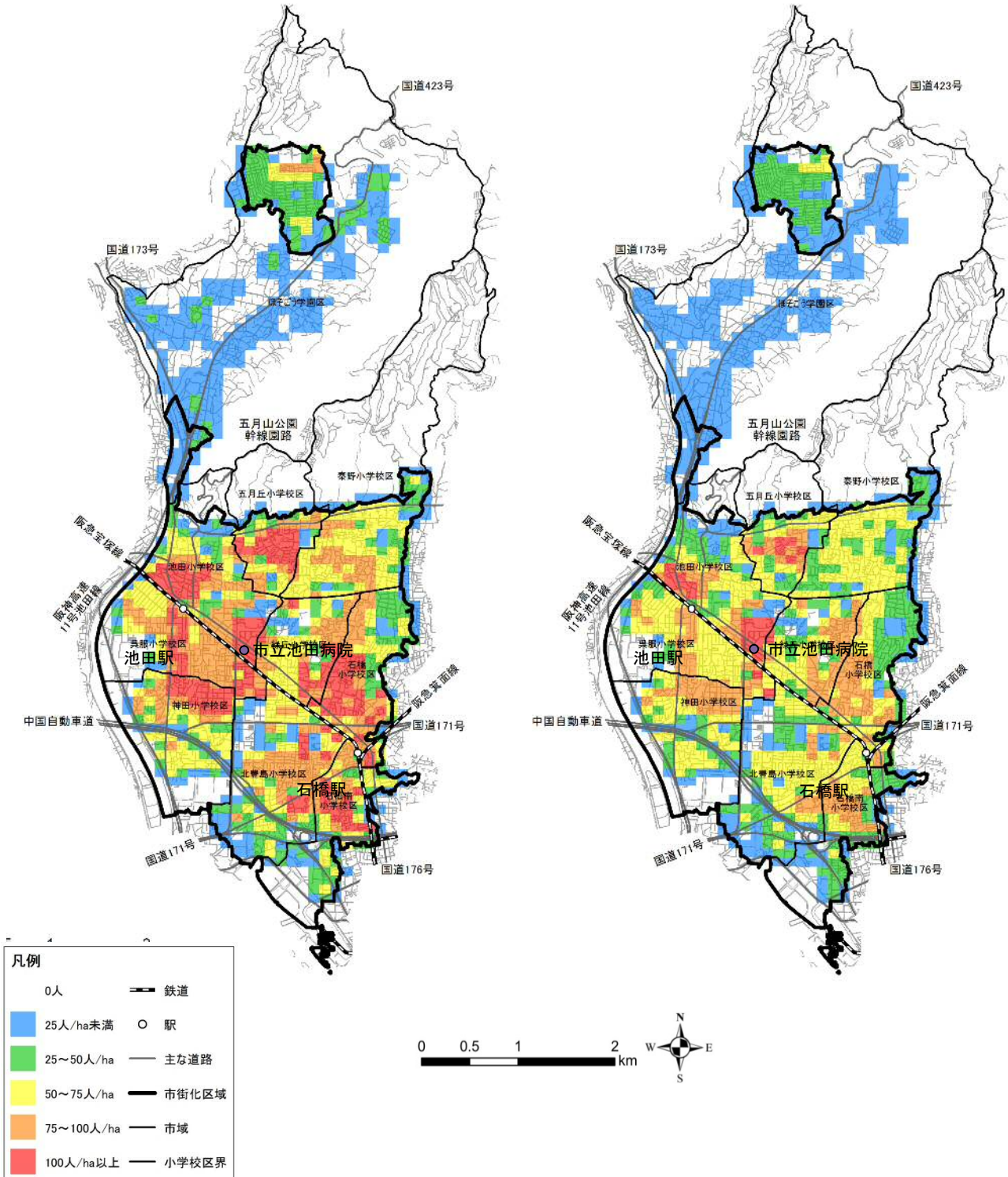


図1-76 生産年齢（15歳以上65歳未満）人口分布の状況（平成27（2015）年、平成52（2040）年）

凡例

- | | |
|----------------|---------|
| 生産年齢人口なし | — 鉄道 |
| ■ -40%未満 | ○ 駅 |
| ■ -40%以上-20%未満 | — 主な道路 |
| ■ -20%以上-10%未満 | — 市街化区域 |
| ■ -10%以上0%未満 | — 市域 |
| ■ 0%以上10%未満 | — 小学校区界 |
| ■ 10%以上20%未満 | |
| ■ 20%以上40%未満 | |
| ■ 40%以上 | |

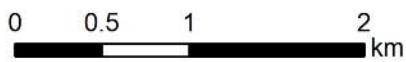
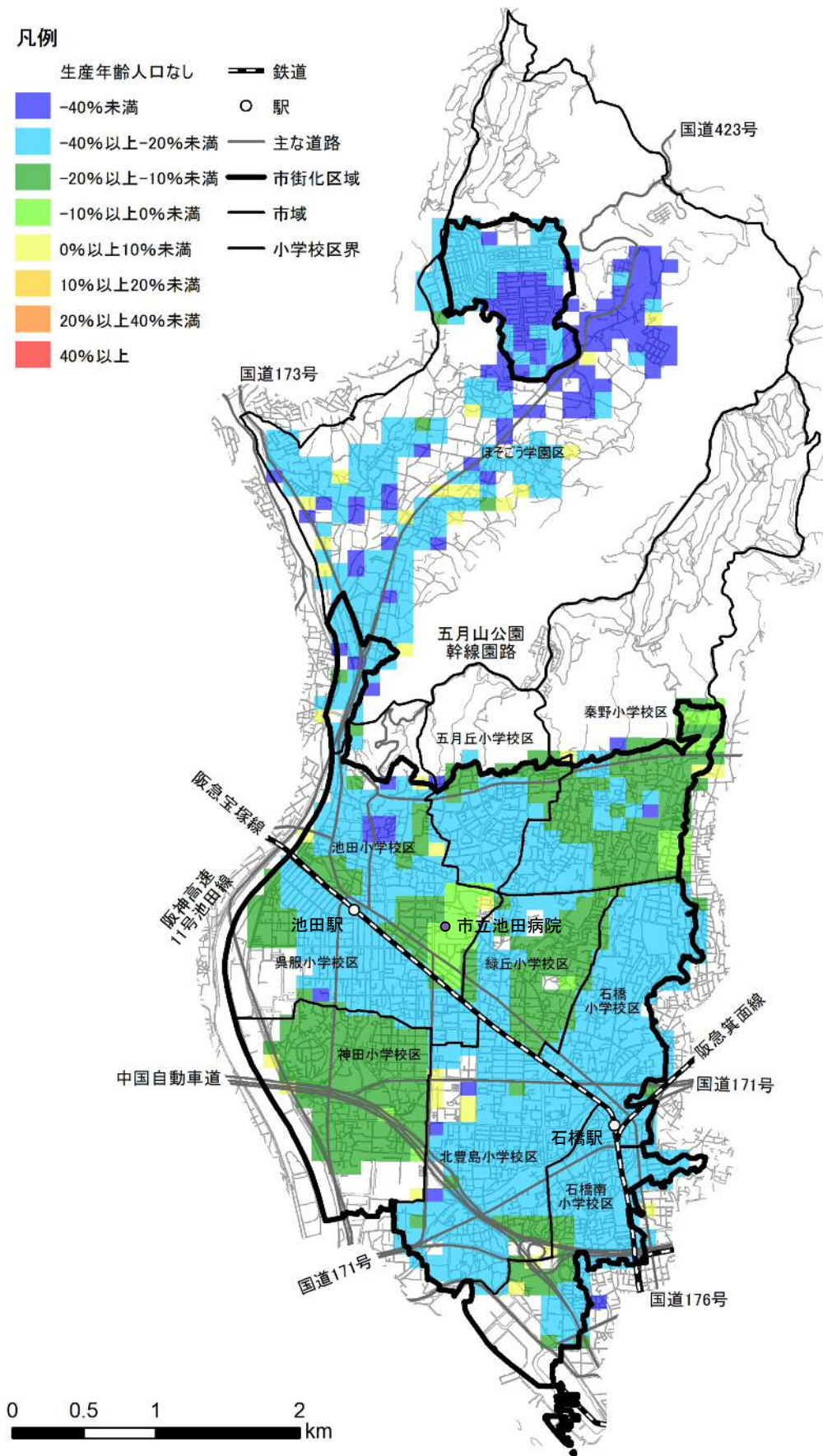


图 1-77 生産年齢人口増減率（平成 27（2015）年→平成 52（2040）年）

⑤高齢者（65歳以上）人口分布の状況

平成 52（2040）年の高齢者人口分布の状況を見ると、市街化区域の大部分の地域で 40 人/ha 以上となっています。（図 1-78）また、平成 27（2015）年から平成 52（2040）年の高齢者人口増減率をみると、ほそごう学園区では減少している地域が多くなっていますが、その他の小学校区では増加している地域が多くなっています。（図 1-79）

平成 27（2015）年

平成 52（2040）年

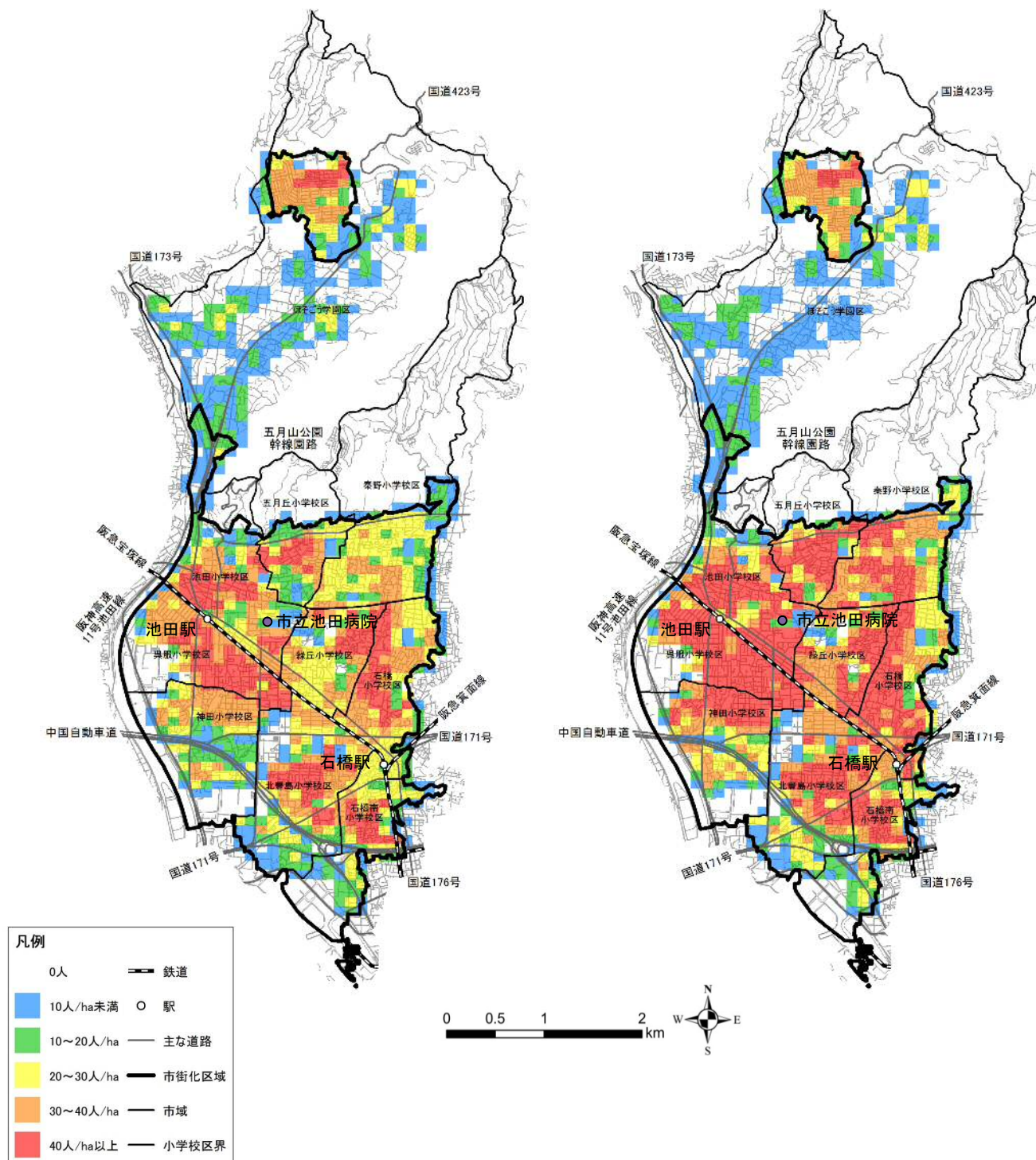


図 1-78 高齢者（65歳以上）人口分布の状況（平成 27（2015）年、平成 52（2040）年）

凡例

- | | |
|----------------|-------------|
| 高齢者人口なし | — 〓 — 鉄道 |
| ■ -40%未満 | ○ 駅 |
| ■ -40%以上-20%未満 | — 〓 — 主な道路 |
| ■ -20%以上-10%未満 | — 〓 — 市街化区域 |
| ■ -10%以上0%未満 | — 〓 — 市域 |
| ■ 0%以上10%未満 | — 〓 — 小学校区界 |
| ■ 10%以上20%未満 | |
| ■ 20%以上40%未満 | |
| ■ 40%以上 | |

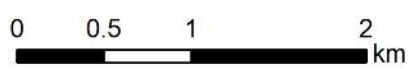
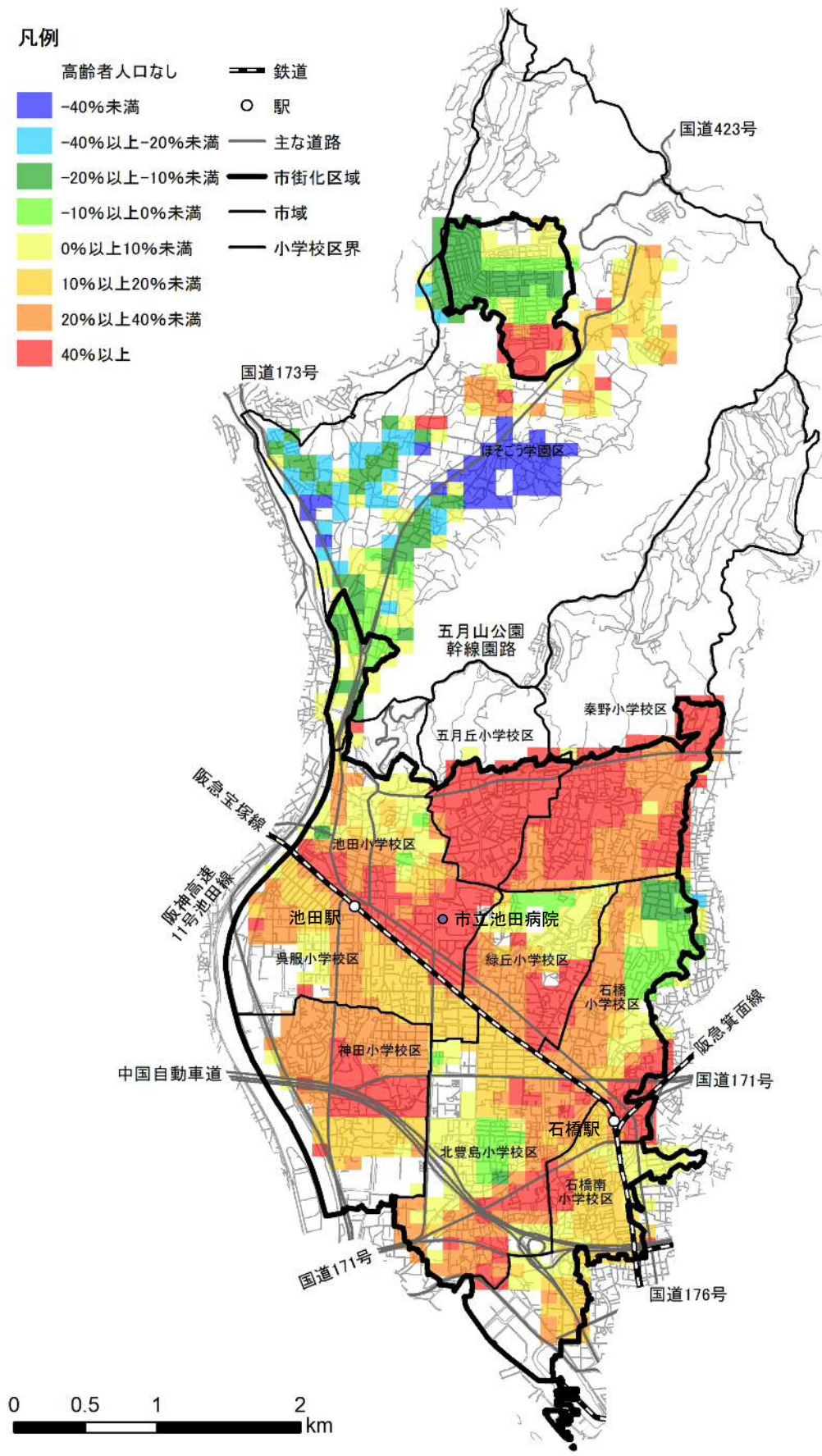


図 1-79 高齢者人口増減率（平成 27（2015）年→平成 52（2040）年）

(2) 施設カバー圏人口の将来見通し

持続可能な都市づくりを推進するためには、人が住み、施設が立地し、まちを形成していく必要があり、そのためには各種生活サービス施設の維持に向けた一定の人口確保が必要であり、人口減少・高齢化に伴う影響を可視化すべく、各施設の施設カバー圏人口の算出を行いました。

①バス停カバー圏人口

一日の運行頻度が30本以上の各バス停について、平成27(2015)年と平成52(2040)年のカバー圏(半径300m)内の人口を比較しました。(図1-81)

カバー圏人口を比較すると、平成27(2015)年の70,126人から、平成52(2040)年の57,251人に減少します。また、3,000人以上のバス停は平成27(2015)年の37%から平成52(2040)年には20%へと約半減し、一方で3,000人未満のバス停が増加することが想定されます。(表1-8、図1-80)

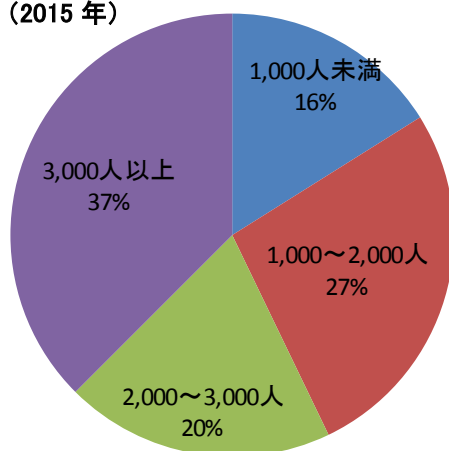
今後、バスの利用者が減少し、バス路線の維持が困難になることが懸念されます。

表1-8 バス停カバー圏人口(平成27(2015)年、平成52(2040)年)

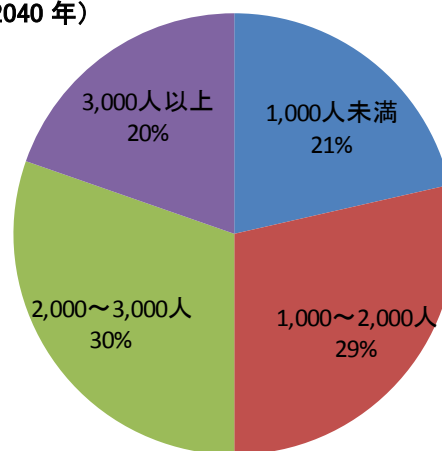
	平成27(2015)年	平成52(2040)年
バス停カバー圏内人口	70,126	57,251
総人口	103,069	84,126

バス停カバー圏人口	バス停箇所数		構成比	
	平成27 (2015)年	平成52 (2040)年	平成27 (2015)年	平成52 (2040)年
1,000人未満	9	12	16%	21%
1,000~2,000人	15	16	27%	29%
2,000~3,000人	11	17	20%	30%
3,000人以上	21	11	37%	20%
合計	56	56	100%	100%

平成27年
(2015年)



平成52年
(2040年)



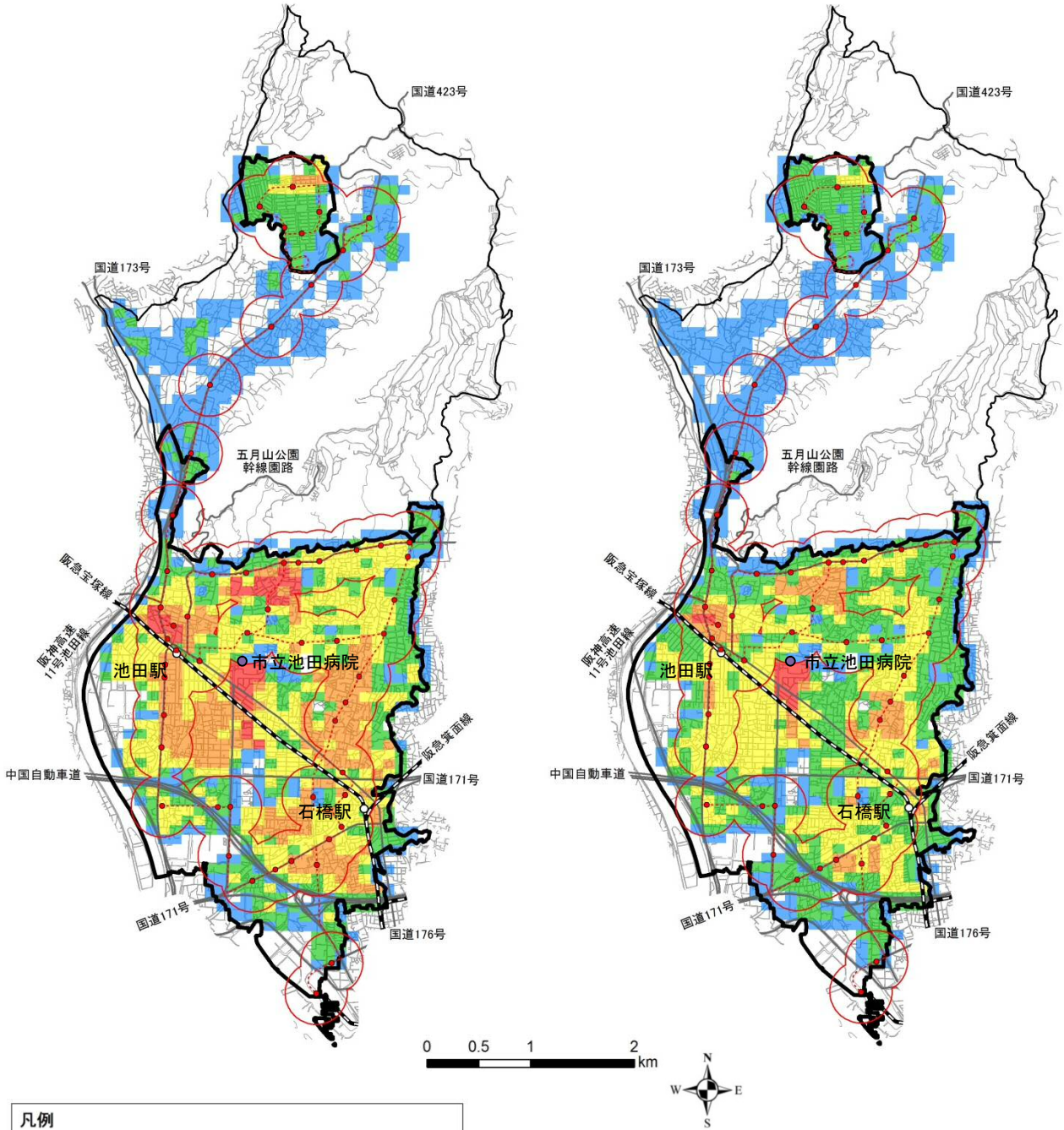
※ バス停カバー圏：都市構造の評価に関するハンドブックでバス停の徒歩圏としている半径300mの範囲

※ バス停カバー圏人口：各バス停のカバー圏に含まれるメッシュ単位の人口を面積按分により集計

図1-80 バス停カバー圏人口(平成27(2015)年、平成52(2040)年)

平成 27 (2015) 年

平成 52 (2040) 年



※ 基幹バス停：30本/日以上バス停

図 1-81 バス停カバー圏と人口分布（平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年）

②コミュニティ施設カバー圏人口

コミュニティ施設（会館、共同利用施設、公民館）について、平成 27（2015）年と平成 52（2040）年のカバー圏（半径 800m）内の人口を比較しました。（図 1-83）

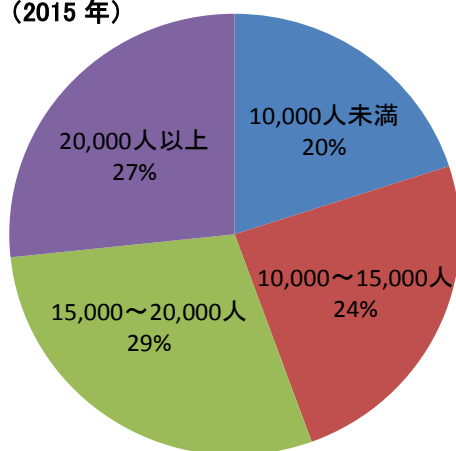
カバー圏人口を比較すると、20,000 人以上のコミュニティ施設は平成 27（2015）年の 27%から平成 52（2040）年には 13%へと約半減し、一方で 15,000 人未満のコミュニティ施設が増加することが想定されます。（表 1-9、図 1-84）

今後、コミュニティ施設の利用者が減少し、施設の維持や運営が困難になることが懸念されます。

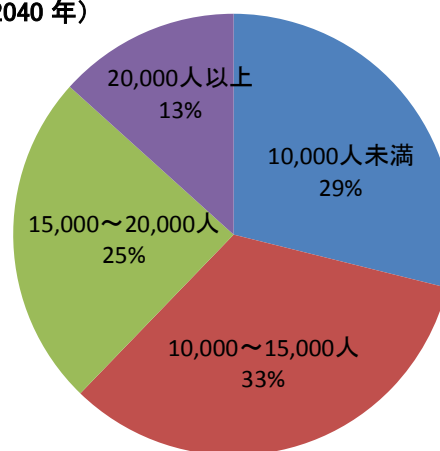
表 1-9 コミュニティ施設カバー圏人口（平成 27（2015）年、平成 52（2040）年）

コミュニティ施設カバー圏人口	施設数		構成比	
	平成 27 (2015)年	平成 52 (2040)年	平成 27 (2015)年	平成 52 (2040)年
10,000 人未満	9	13	20%	29%
10,000～15,000 人	11	15	24%	33%
15,000～20,000 人	13	11	29%	25%
20,000 人以上	12	6	27%	13%
合計	45	45	100%	100%

平成27年
(2015年)



平成52年
(2040年)



※ コミュニティ施設カバー圏：都市構造の評価に関するハンドブックで一般的な徒歩圏としている半径 800m の範囲

※ コミュニティ施設カバー圏人口：各施設のカバー圏に含まれるメッシュ単位の人口を面積按分により集計

図 1-82 コミュニティ施設カバー圏人口（平成 27（2015）年、平成 52（2040）年）

平成 27 (2015) 年

平成 52 (2040) 年

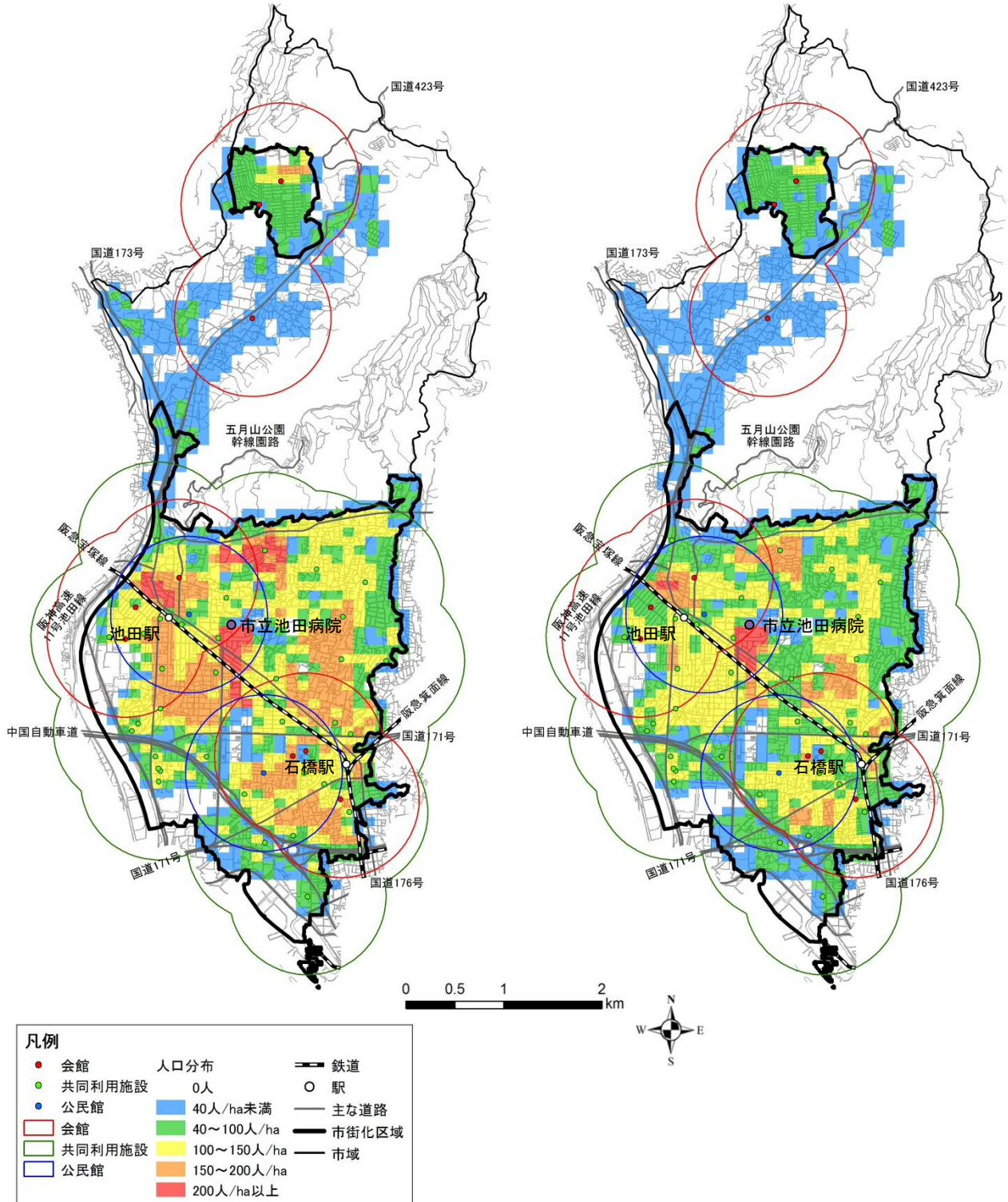


図 1-83 コミュニティ施設カバー圏と人口分布 (平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年)

③小学校区人口

小学校について、平成 27 (2015) 年と平成 52 (2040) 年の小学校区内の人口を比較しました。
(図 1-85)

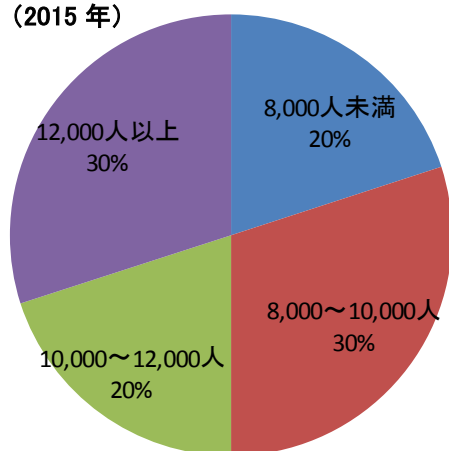
小学校区の人口を比較すると、12,000 人以上の小学校区は平成 27 (2015) 年の 30%から平成 52 (2040) 年には 10%に大きく減少し、一方で 10,000 人未満の小学校区が増加することが想定されます。(表 1-10、図 1-84)

今後、小学校区内の人口が減少することで、小学校の維持が難しくなることが懸念されます。

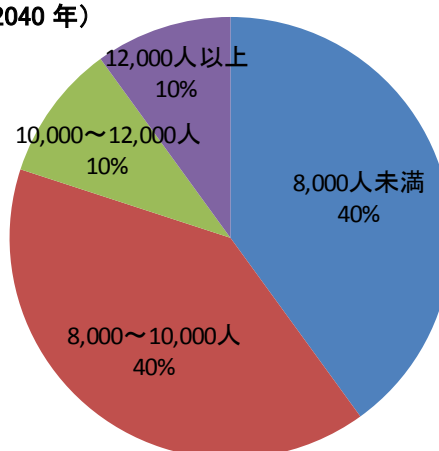
表 1-10 小学校区人口 (平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年)

小学校区人口	小学校数		構成比	
	平成 27 (2015) 年	平成 52 (2040) 年	平成 27 (2015) 年	平成 52 (2040) 年
8,000 人未満	2	4	20%	40%
8,000~10,000 人	3	4	30%	40%
10,000~12,000 人	2	1	20%	10%
12,000 人以上	3	1	30%	10%
合計	10	10	100%	100%

平成27年
(2015年)



平成52年
(2040年)



※ 小学校区人口：各小学校区に含まれるメッシュ単位の人口を面積按分により集計

図 1-84 小学校区人口 (平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年)

平成 27 (2015) 年

平成 52 (2040) 年

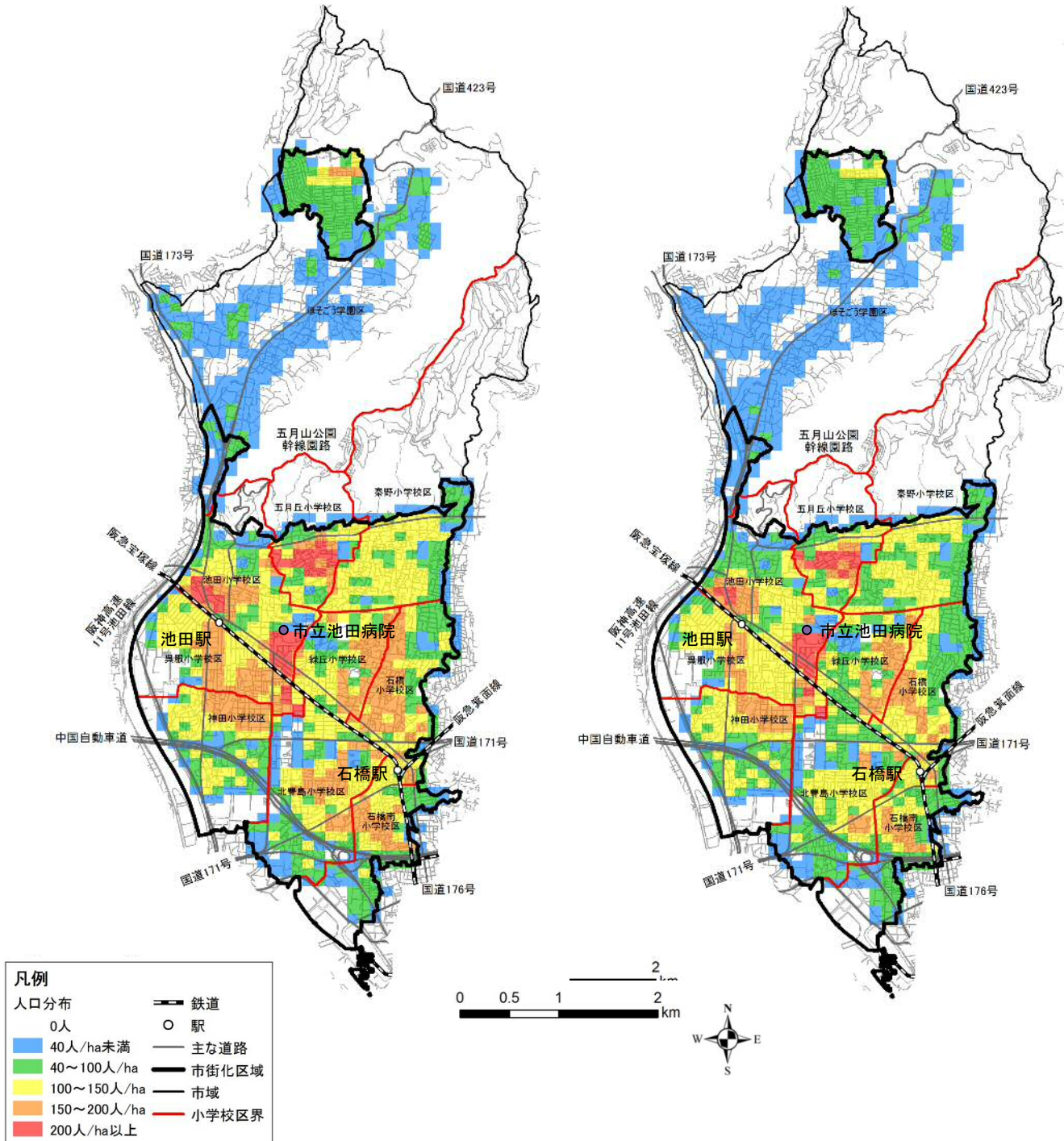


図 1-85 小学校区と人口分布（平成 27 (2015) 年、平成 52 (2040) 年）

3 市民意識に見る都市構造上の課題

(1) 市民意向調査について

立地適正化計画策定に向けて行った市民意向調査の結果から、都市構造上の課題を抽出します。

【調査概要】

- ・対象：池田市在住 18 歳以上の方 3,000 人
- ・調査期間：平成 30 (2018) 年 2 月 16 日 (金)【発送】～同年 3 月 5 日【回答〆切】
- ・回収数：1,252
- ・回収率：42.0% (有効発送数 2,984)

【回答者概要】

- ・性別：男性約 4 割、女性約 6 割。
- ・年齢層：70 歳代 20.6%、60 歳代 20.2%、40 歳代 19.3%の順が多い。
- ・職業：「会社員・公務員・団体職員」、「家事従業者（専業主婦（夫）など）」、「パート・アルバイト」。
- ・世帯構成は、「親+子ども」51.0%、「夫婦のみ」30.7%。

(1-1) 市内での生活行動

- ・生鮮食料品など最寄り品の購入や外食については池田駅や石橋駅周辺への来訪が多くなっています。(図 1-86、図 1-92)
- ・買回り品については「箕面・伊丹・豊中などの大型ショッピングセンター」、外食については 2 番目に「市内の幹線道路 (176 号等) 沿いの商業施設」があるなど、車での移動が容易な場所への来訪が見られます。(図 1-89、図 1-92)
- ・通勤・通学は、池田駅利用が多く、「徒歩」や「自転車」の利用が多くなっています。(図 1-96、図 1-97)

Q：あなたやご家族は、普段、どちらへ買い物、通勤・通学をしていますか。また、その際どのような交通手段を使われますか。

①生鮮食料品、日用家庭用品等 ※ご家族で最もよく使われる方

図 1-86 買い物の場所 (N=1,198)

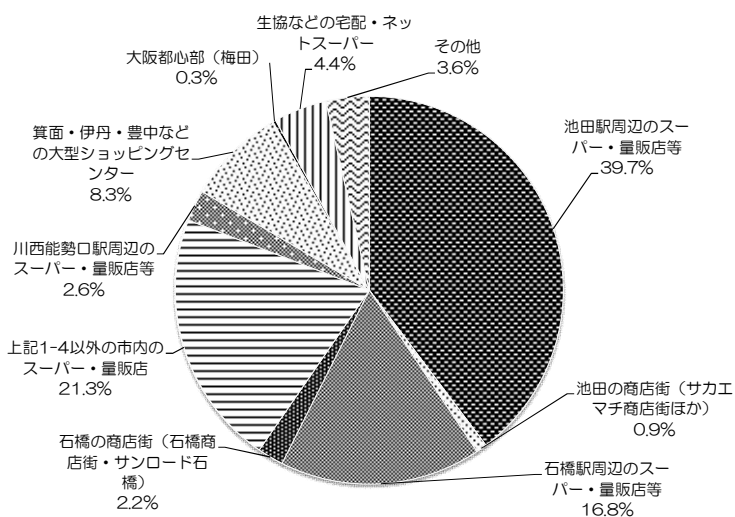


図 1-87 交通手段 (N=1,171)

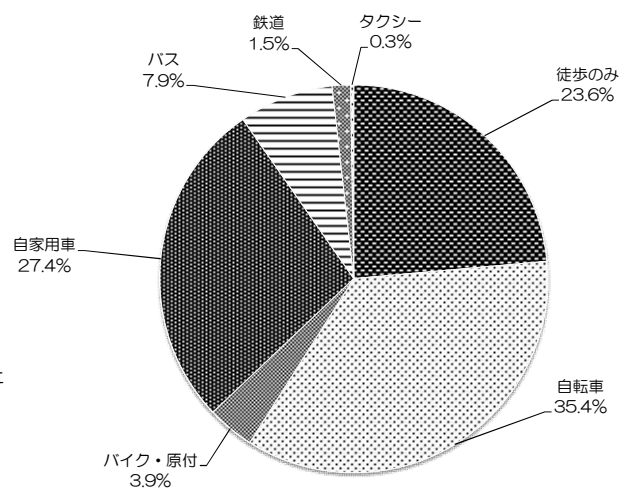
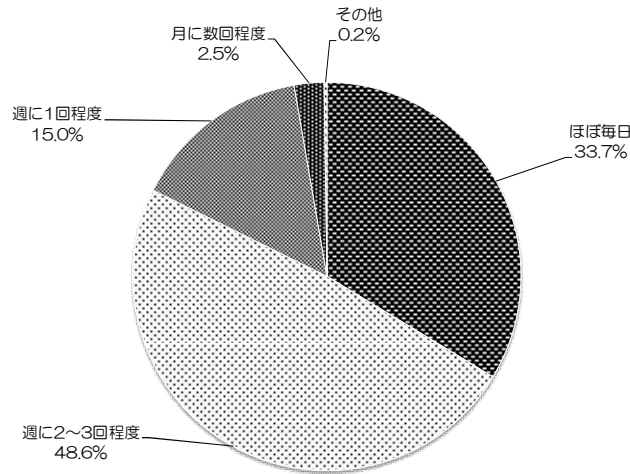


図 1-88 利用頻度 (N=1,244)



②衣料品、家電、家具等（買回り品） ※ご家族で最もよく使われる方の行動

図 1-89 買い物の場所 (N=1,198)

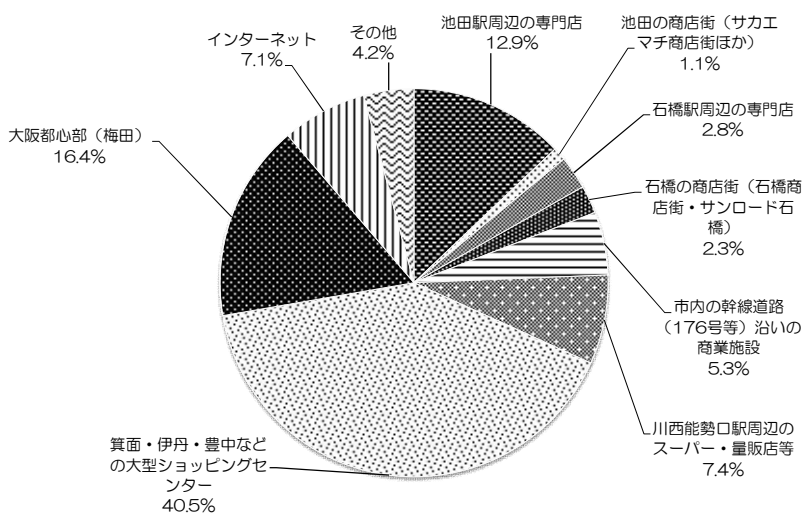


図 1-90 交通手段 (N=1,118)

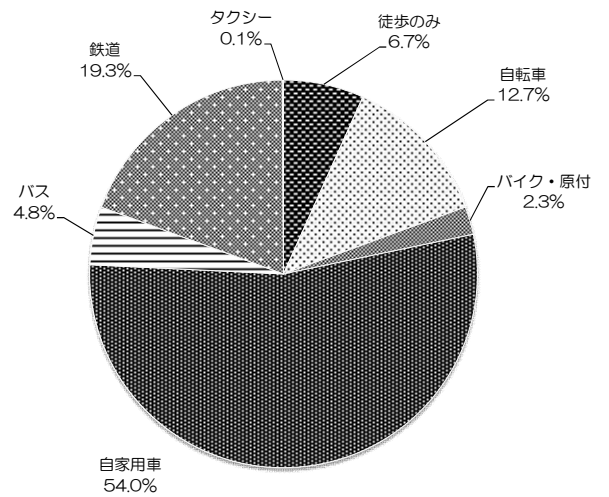
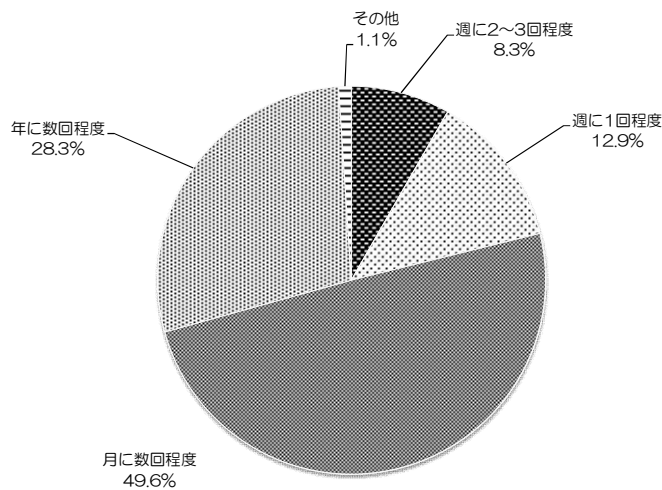


図 1-91 利用頻度 (N=1,235)



③ 外食 ※ご家族での行動

図 1-92 外食の場所 (N=1,219)

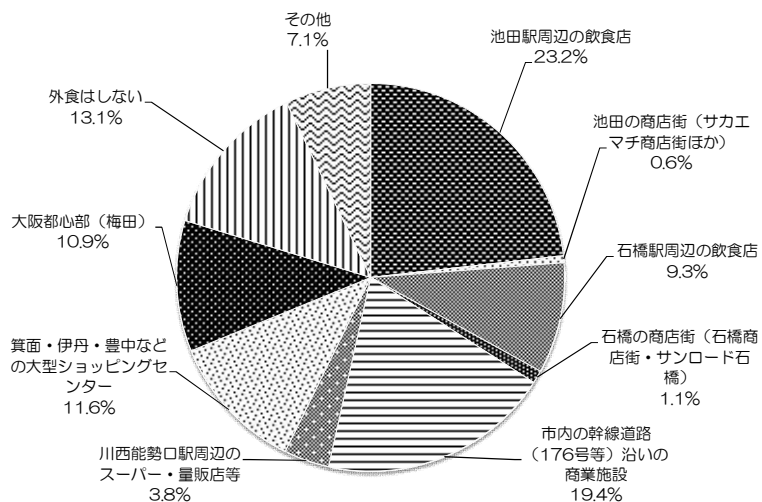


図 1-93 交通手段 (N=1,063)

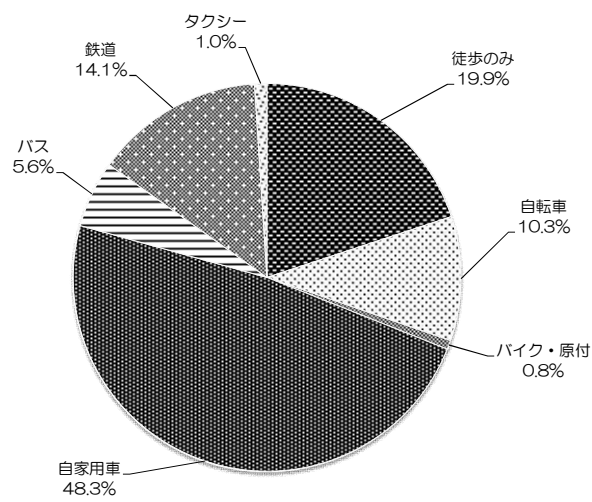
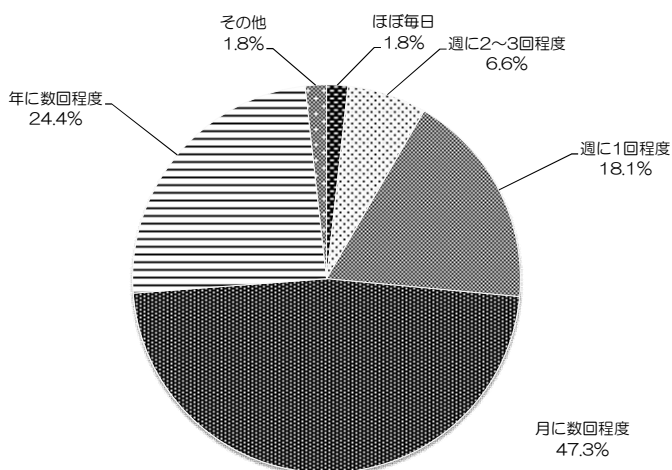


図 1-94 利用頻度 (N=1,073)



④ 通勤・通学 ※あなた自身の行動

図 1-95 通勤・通学先 (N=923)

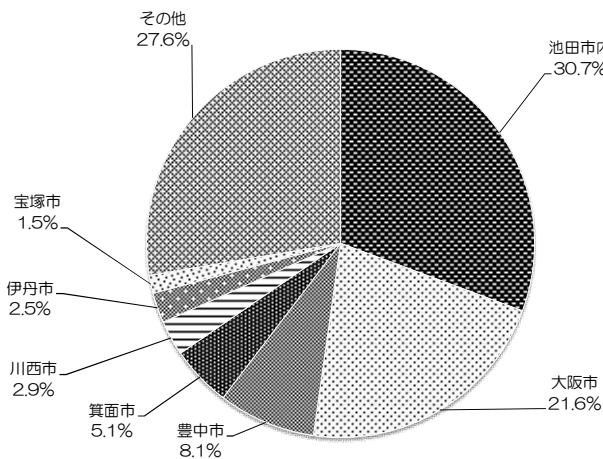


図 1-96 交通手段 (N=856)

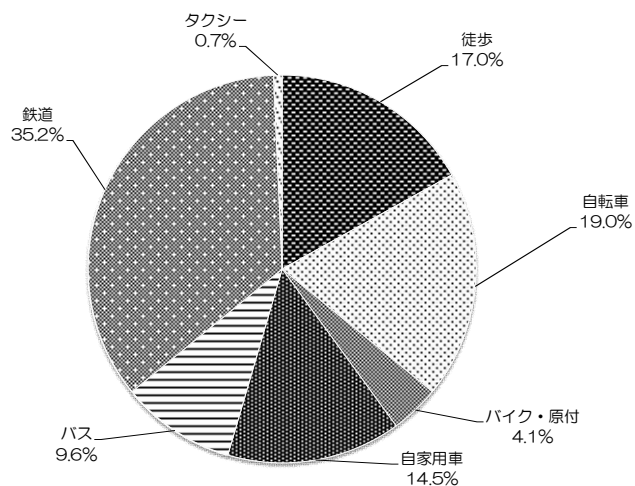
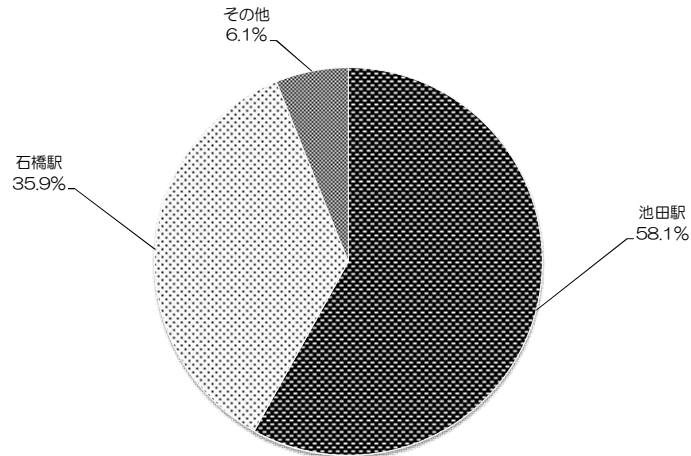


図 1-97 鉄道に○→最も利用する最寄り駅 (N=396)

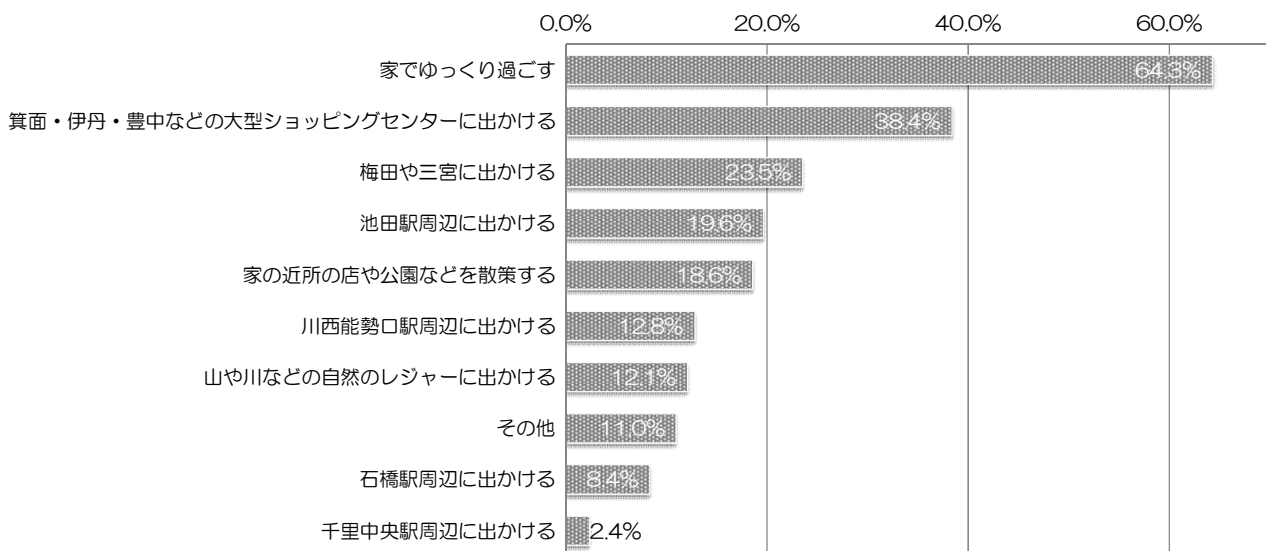


(1-2) 休日の生活行動

・休日に、「家でゆっくり過ごす」との回答者が6割を超えています。出かける先としては、「箕面・伊丹・豊中などの大型ショッピングセンターにでかける」(約4割)、「梅田や三宮に出かける」(約2割)と、市内で過ごす(「池田駅周辺に出かける」、「家の近所の店や公園などを散策する」など)よりも高くなっています。(図 1-98)

Q : あなたのご家庭では、どのような休日の過ごし方が多いですか。【3つまで】

図 1-98 休日の過ごし方 (N=1, 232)



(1-3) 身近なまち（小学校区程度）の暮らしの評価

- ・現在の満足度としては、「緑や水辺、農地など自然を感じる空間の充実度」、「日常の買い物の便利さ」、「子育てのしやすさ」、「まちの安全性（防災面・治安面）」が高くなっています。（図 1-99）
- ・一方、「公共交通（バス）の利用しやすさ」、「日常の買い物の便利さ」、「公共施設（市役所・図書館など）の利用のしやすさ」、「保険・医療・福祉施設の利用しやすさ」、「地域主体（地域分権）のまちづくりの活発さ」については、「やや不満」、「不満」の割合が高くなっています。（図 1-99）
- ・今後の重要度としては、「保健・医療・福祉施設の利用しやすさ」、「まちの安全性（防災面・治安面）」、「日常の買い物の便利さ」、「子育てのしやすさ」が高くなっています。（図 1-100）
- ・年齢層別にクロス集計を行ったところ、「子育てのしやすさ」「教育環境の充実度」については、全体的に「不満」という回答の割合は低いものの、「普通」の占める割合も比較的高い状況となっています。（図 1-101、図 1-102）

Q：お住まいの地域について、「現在の満足度」と「今後の重要度」についてお答え下さい。
【それぞれ1つに○】

図 1-99 現在の満足度

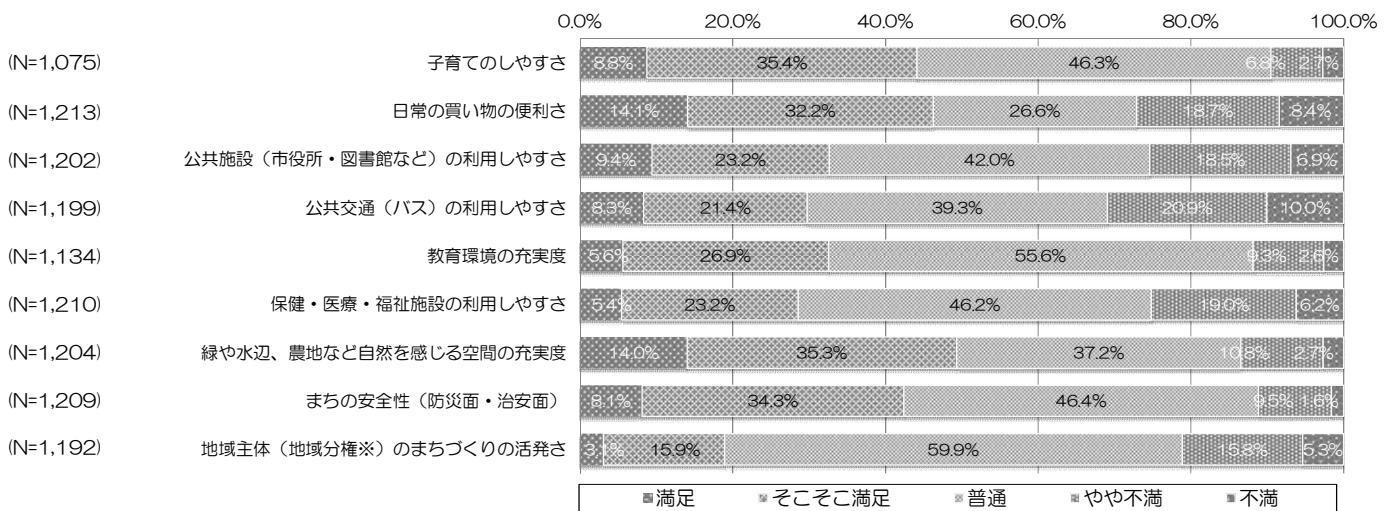


図 1-100 今後の重要度

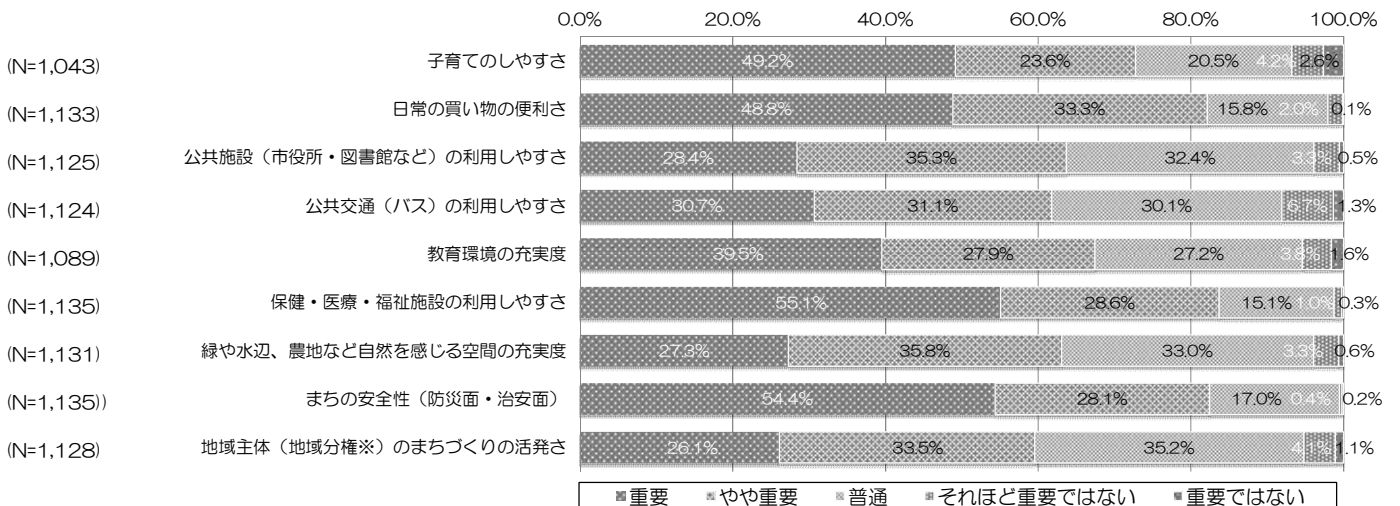


図 1-101 子育てのしやすさ (年齢クロス)

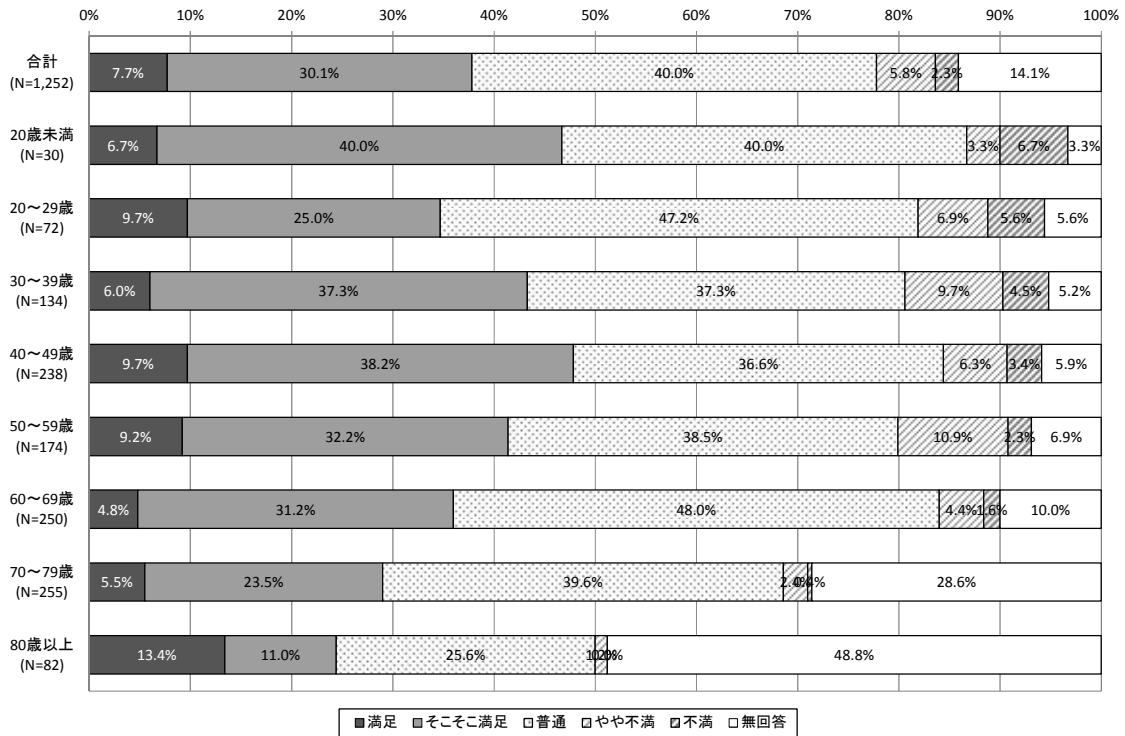
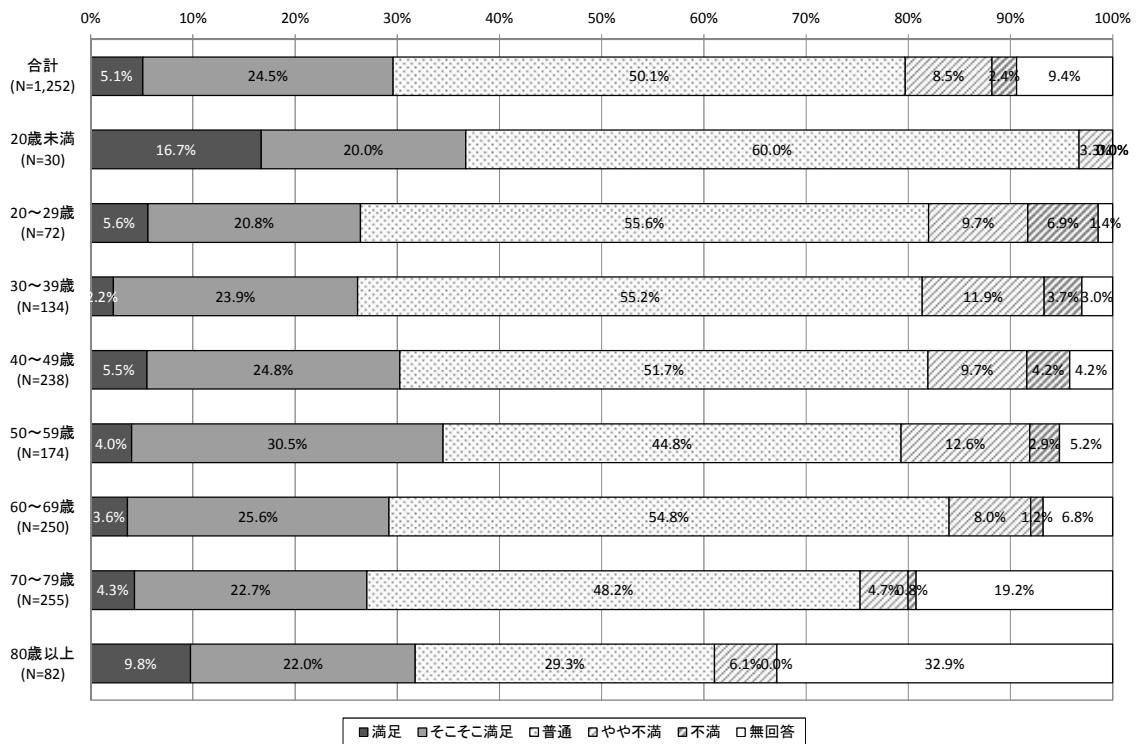


図 1-102 教育環境の充実度 (年齢クロス)

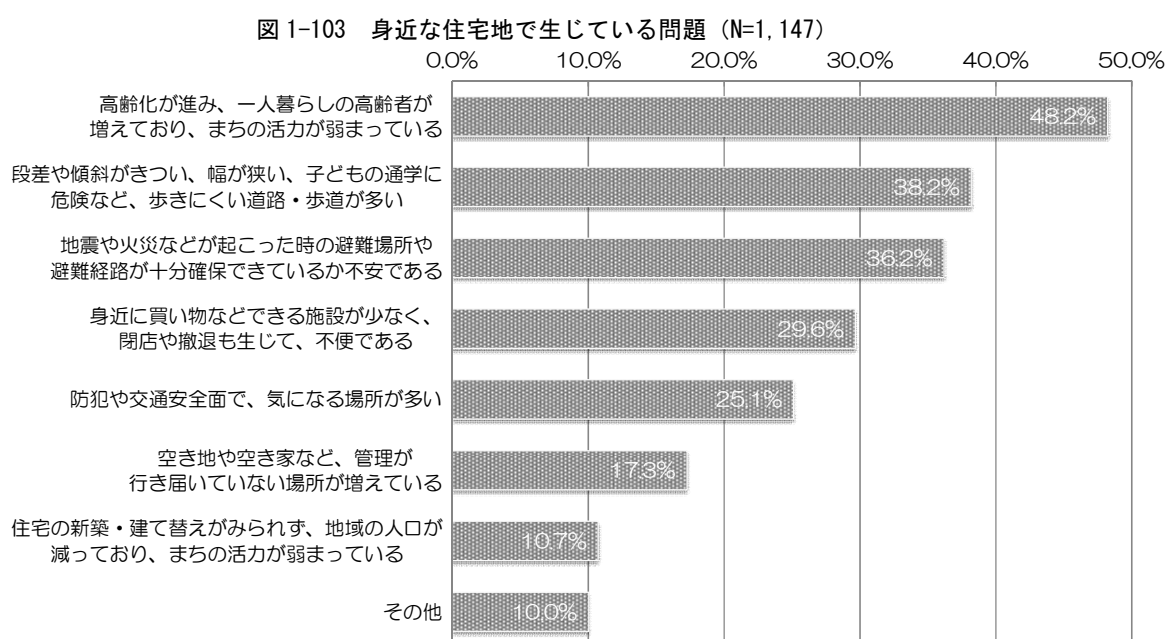


(1-4) 身近なまち（小学校区程度）で生じている問題

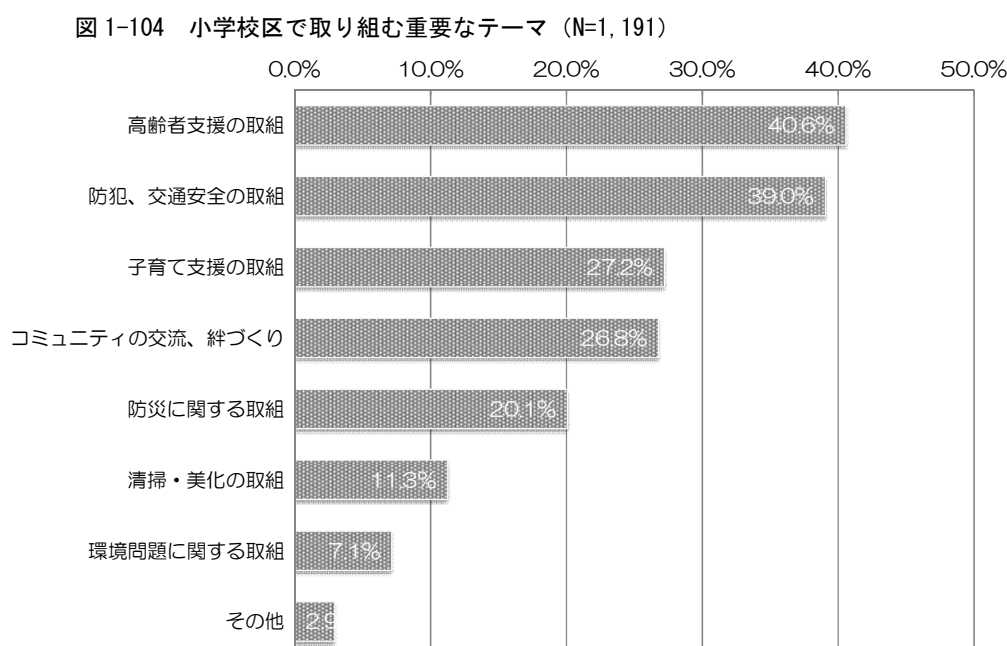
- ・住宅地で生じている問題としては、「高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えており、まちの活力が弱まっている」という回答が約5割と最も高くなっています。(図1-103)
- ・次いで、「段差や傾斜がきつい、幅が狭い、子どもの通学に危険など、歩きにくい道路・歩道が多い」という都市基盤に関する意見が多くなっています。(図1-103)
- ・上記の住宅地における課題に対して、地域分権で取り組んでいくべきと考えるまちづくりのテーマとして、高齢者支援や防犯、交通安全などが多くなっています。(図1-104)

※地域分権：「自分たちのまちは自分たちでつくろう」を合言葉に、地域内の課題解決のため、小学校区単位の協議会が市に事業提案を行い、自主的・自立的なまちづくり活動を進めていく池田市独自の取り組みです。

Q：あなたの身近な住宅地で生じている問題がありますか。【あてはまるもの全て】



Q：地域分権のまちづくりにおいて、あなたの小学校区で取り組んでいくべきまちづくりのテーマとして、何が重要だと思われますか。【2つまで】



(1-5) これからの居留意向

- 池田市に住むことになったきっかけとしては、「池田市に生まれ育ったから」が最も高くなっていますが、「住宅の購入」や「結婚・出産」などライフステージの転換を機にという回答もほぼ同等の数値となっています。(図 1-105)
- 住宅の種類としては、「戸建て(持ち家)」が最も多く半数を超えています。「マンション(持ち家)」と合わせると全体の4分の3が持ち家となっています。(図 1-106)
- 居住年数は、「30年以上」が最も高く、次いで、「10年以上20年未満」が高くなっています。(図 1-107)
- 「ずっと住み続けるつもり」、「できれば住み続けたい」が全体の4分の3程度となり、定住意向が高いと言えます。(図 1-108)
- 年齢別・地域別にクロス集計を行ったところ、年齢が上がるとともに定住意向は強い傾向にあり、「20歳未満」を除く全ての年代で5割以上が「住み続けたい」と回答しています。また、地域に関わらず定住意向は比較的高いと言えます。(図 1-109、図 1-110)

図 1-105 池田市に住むことになったきっかけ
(N=1, 221)

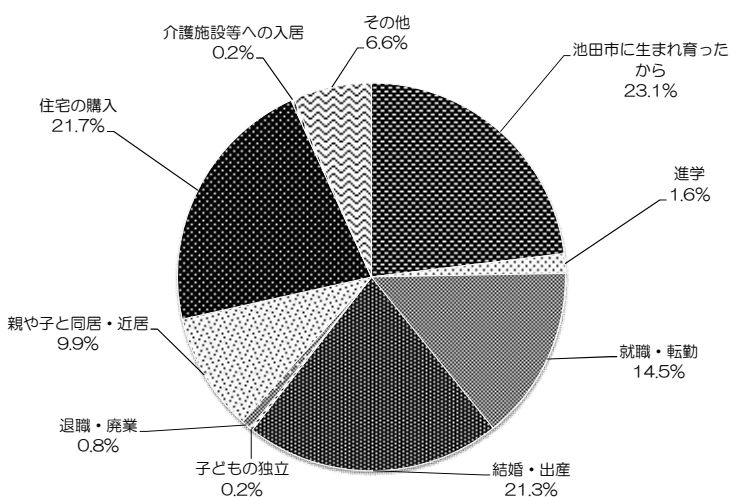


図 1-106 現在お住まいの住宅について
(N=1, 234)

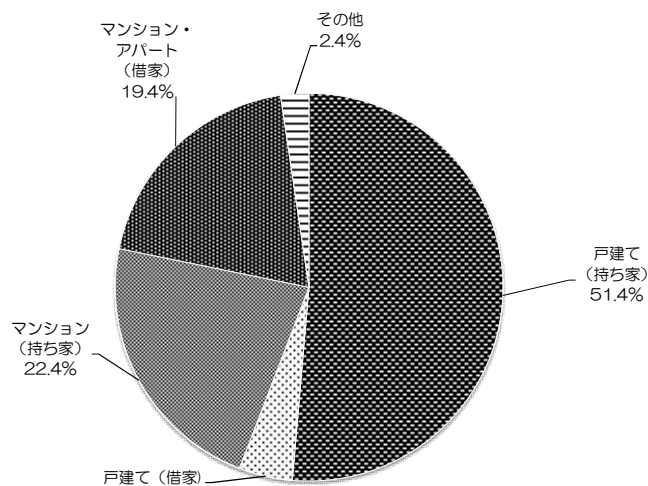


図 1-107 市内にお住まいになってからの年数
(N=1, 239)

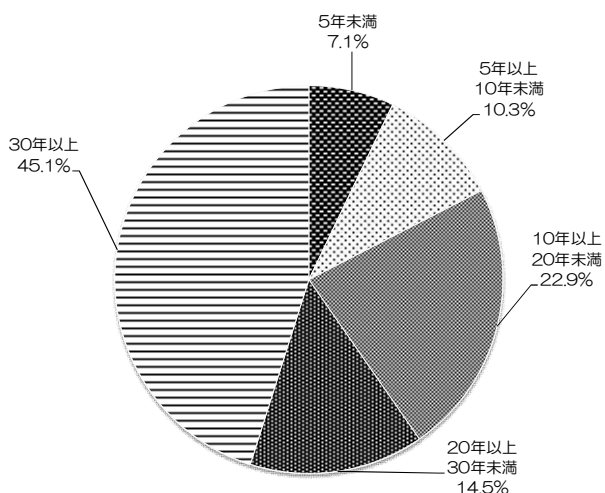


図 1-108 今後の定住意向
(N=1, 211)

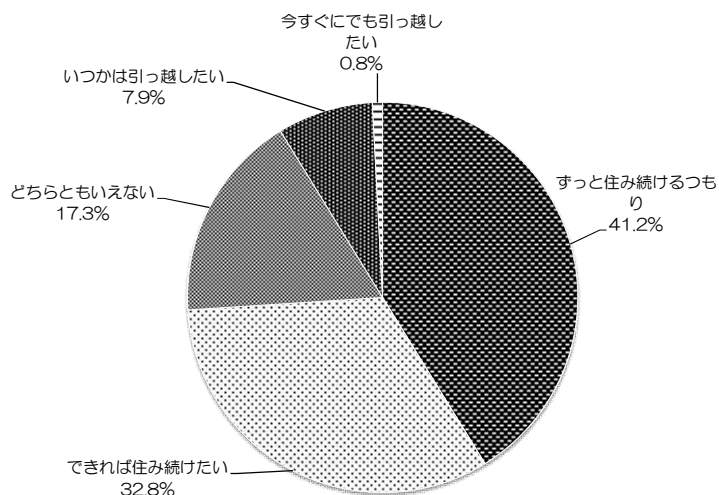


図 1-109 定住意向（年齢クロス）

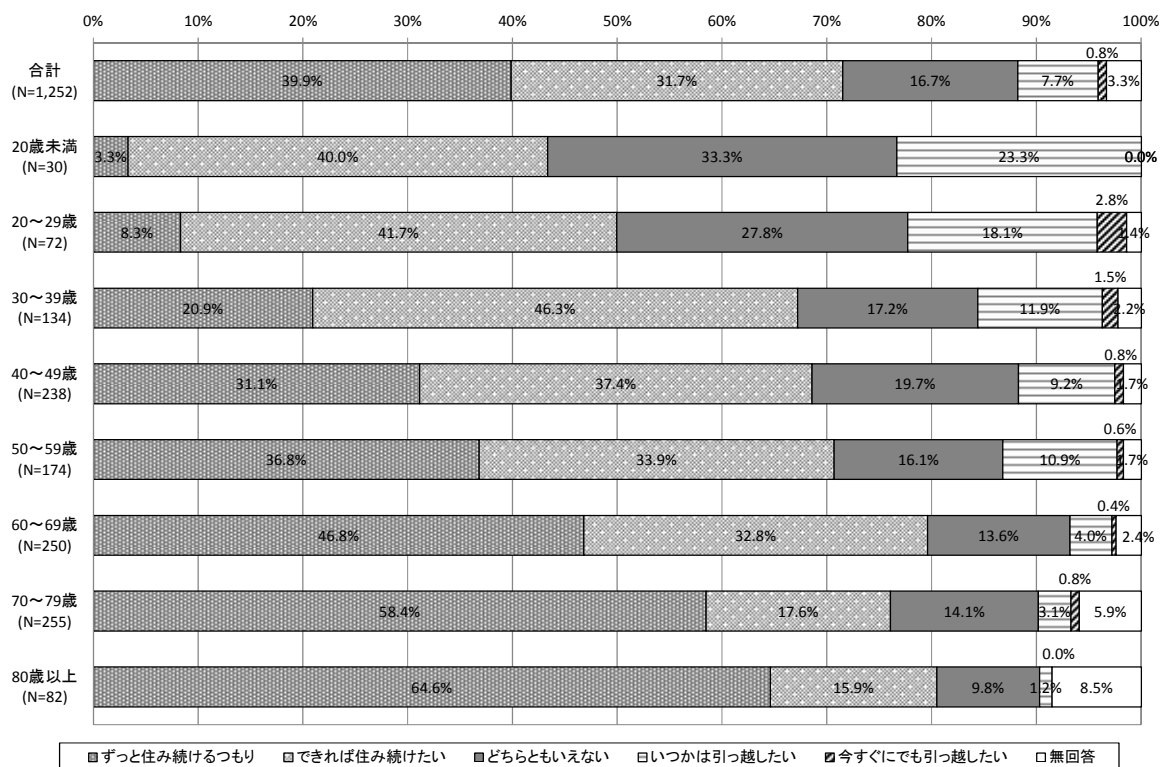
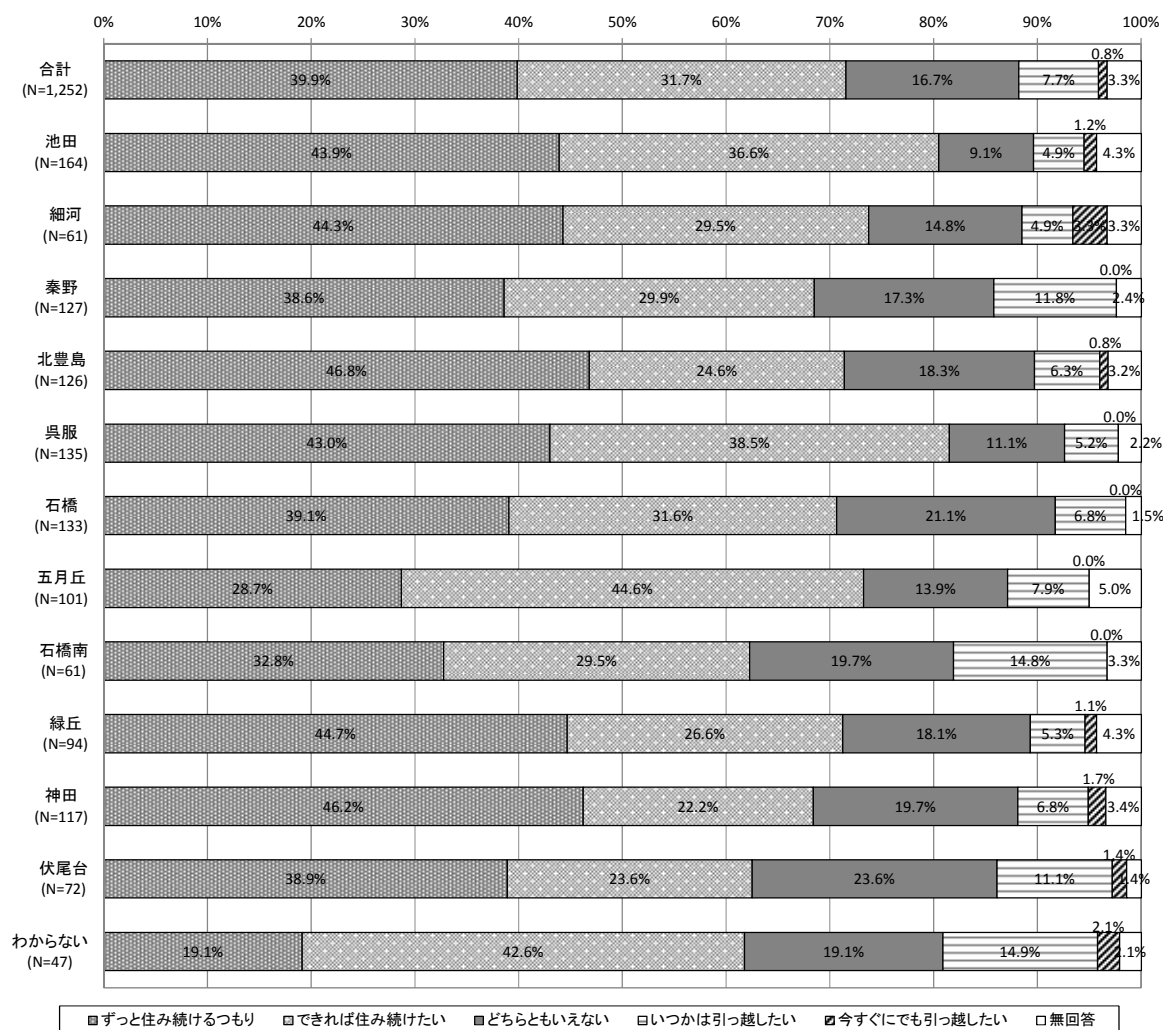
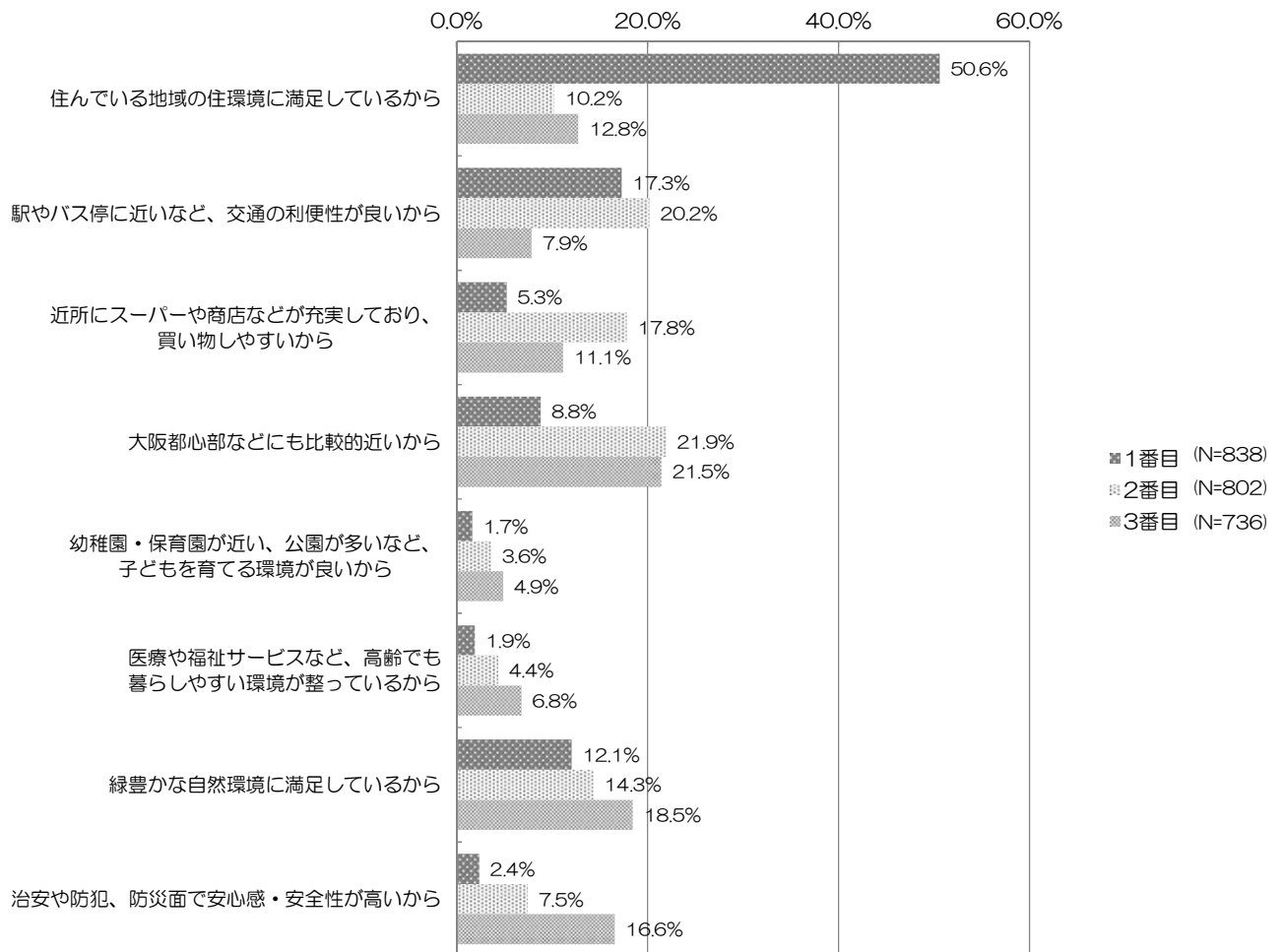


図 1-110 定住意向（地域別クロス）



Q : 「1 ずっと住み続けるつもり」または「2 できれば住み続けたい」を選んだ方。住み続けたい理由は何ですか。優先順位をつけてお答え下さい。

図 1-111 住み続けたい理由



Q : 「3 今すぐにでも引っ越したい」または「4 いつかは引っ越したい」を選んだ方。

図 1-112 引っ越し先 (N=95)

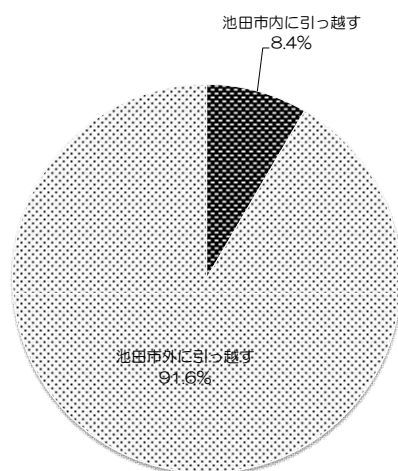
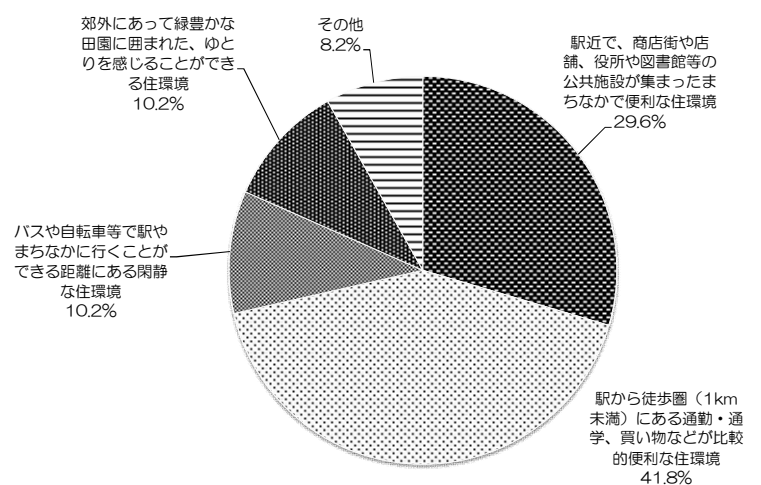
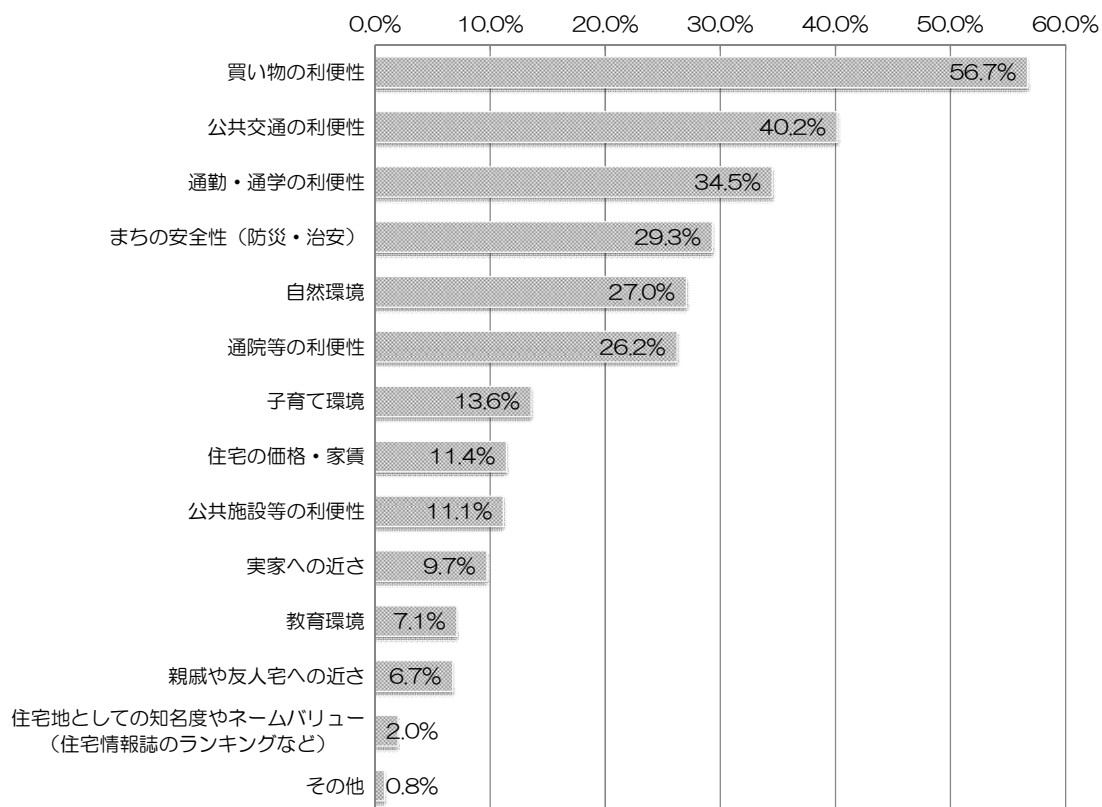


図 1-113 住みたい場所 (N=98)



Q : あなたが、居住環境として重視する点は何ですか。【最大3つ】

図 1-114 居住環境で重視する点 (N=1,113)



(1-6) 池田駅及び石橋駅周辺のまちづくり

- 池田駅周辺の不足している機能としては、「大規模商業施設」を挙げる割合が最も高く、次いで「レジャー・レクリエーション施設」が高くなっています。(図 1-115)
- 石橋駅周辺の不足している機能としては、池田駅と同様に「大規模商業施設」が最も高く、次いで「行政窓口」が高くなっています。(図 1-116)
- 将来の駅周辺のまちづくりの方向性としては、池田駅周辺及び石橋駅周辺ともに、「日々の暮らしに必要な店舗等が充実し、買い物などに便利なまち」を1番に挙げる意見が多く、2番目、3番目と総合的に見ると、「魅力的な店舗・こだわりの飲食店などが充実し、普段や週末の暮らしが楽しめるまち」の割合も高くなっています。(図 1-117、図 1-118)

① 駅周辺で不足している、サービスの充実が必要と感じている施設

Q：現在、池田駅周辺、石橋駅周辺において、それぞれ不足している、サービスの充実が必要と感じている施設は何ですか。優先順位をつけてお答え下さい。

図 1-115 池田駅周辺で不足している・サービスの充実が必要な施設

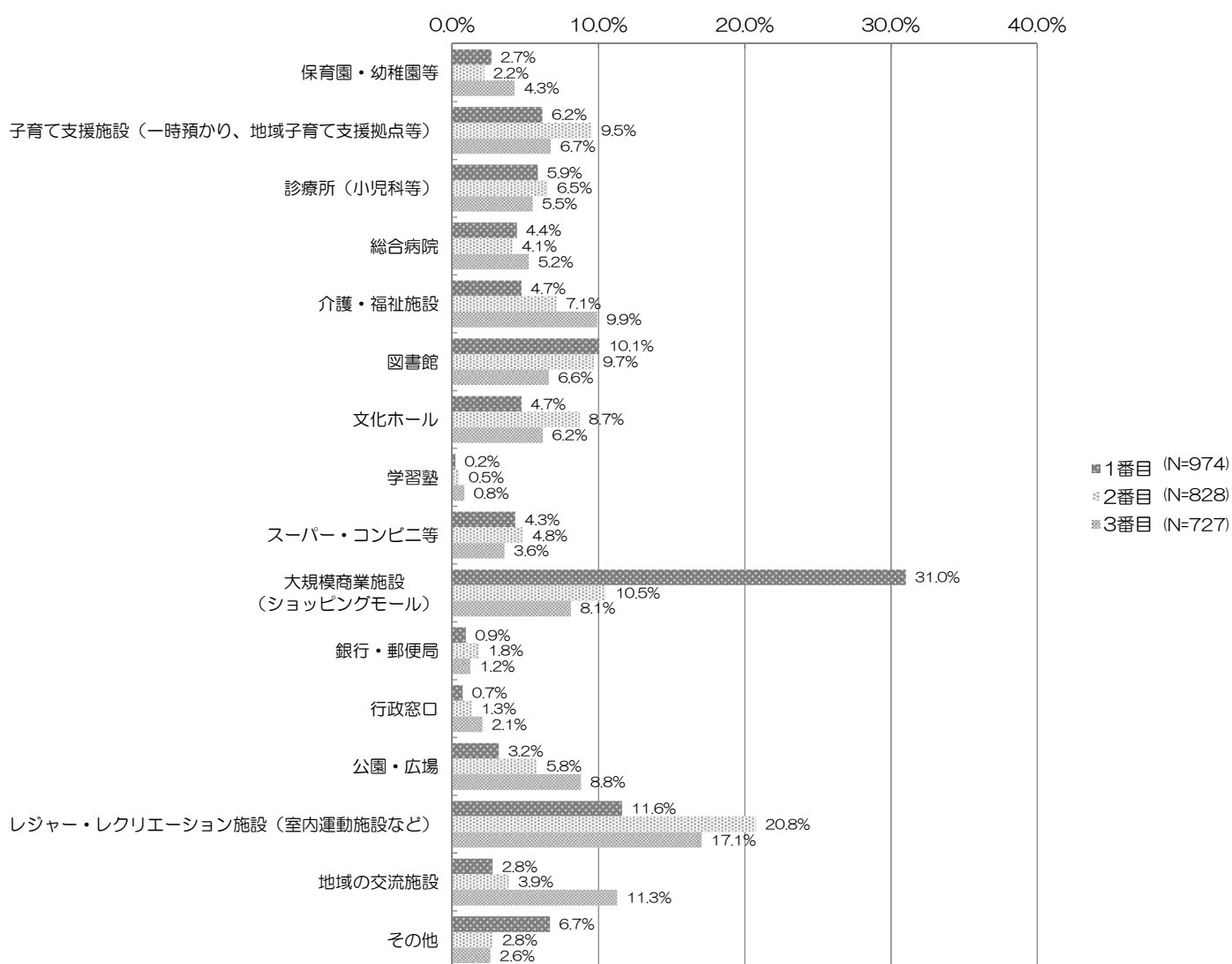
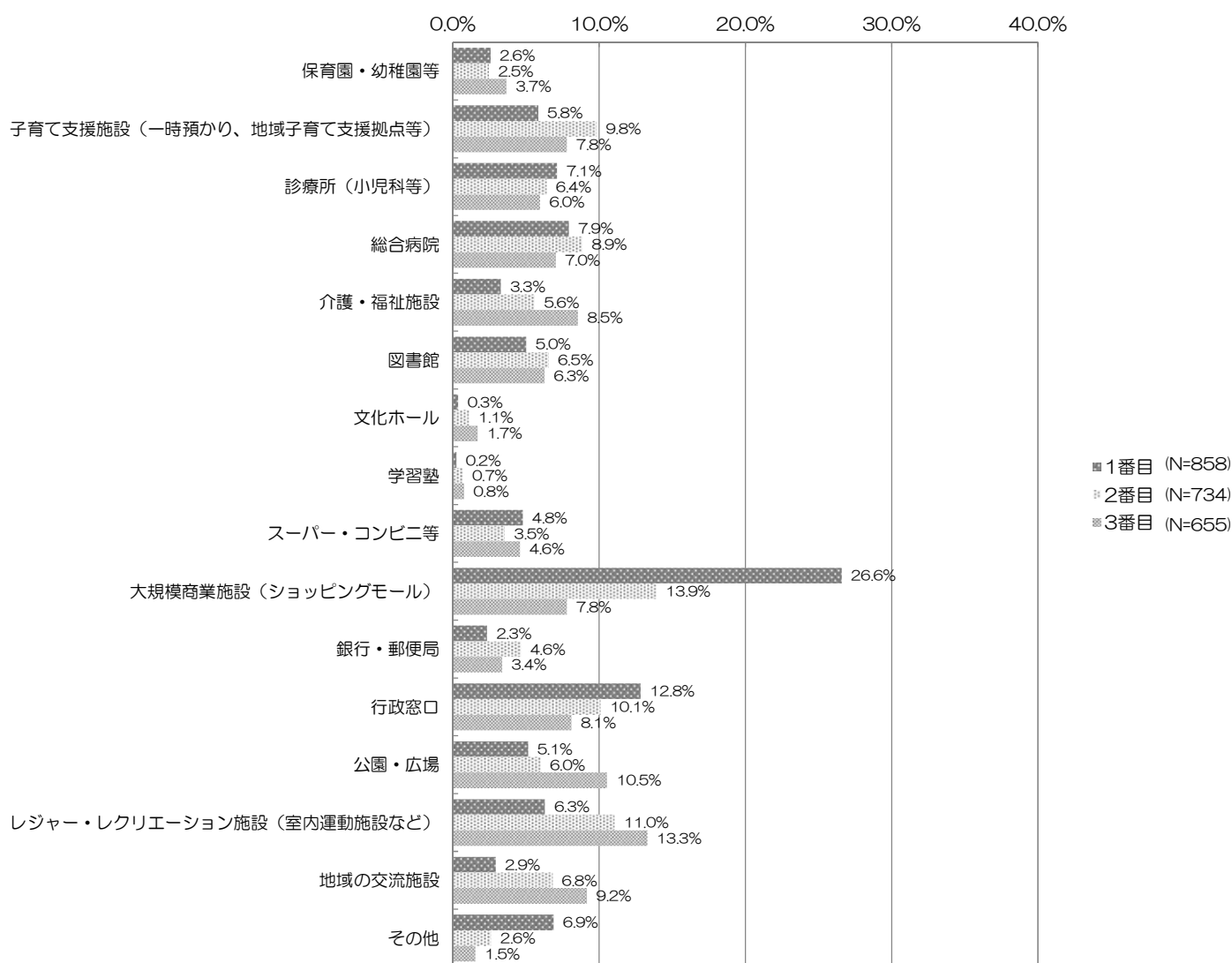


図 1-116 石橋駅周辺で不足している・サービスの充実が必要な施設



②将来の駅周辺のまちづくりの方向性

Q：あなたは、池田駅周辺および石橋駅周辺がどのようなまちになればよいと思いますか？優先順位をつけてお答え下さい。

図 1-117 池田駅周辺のまちづくりの方向性

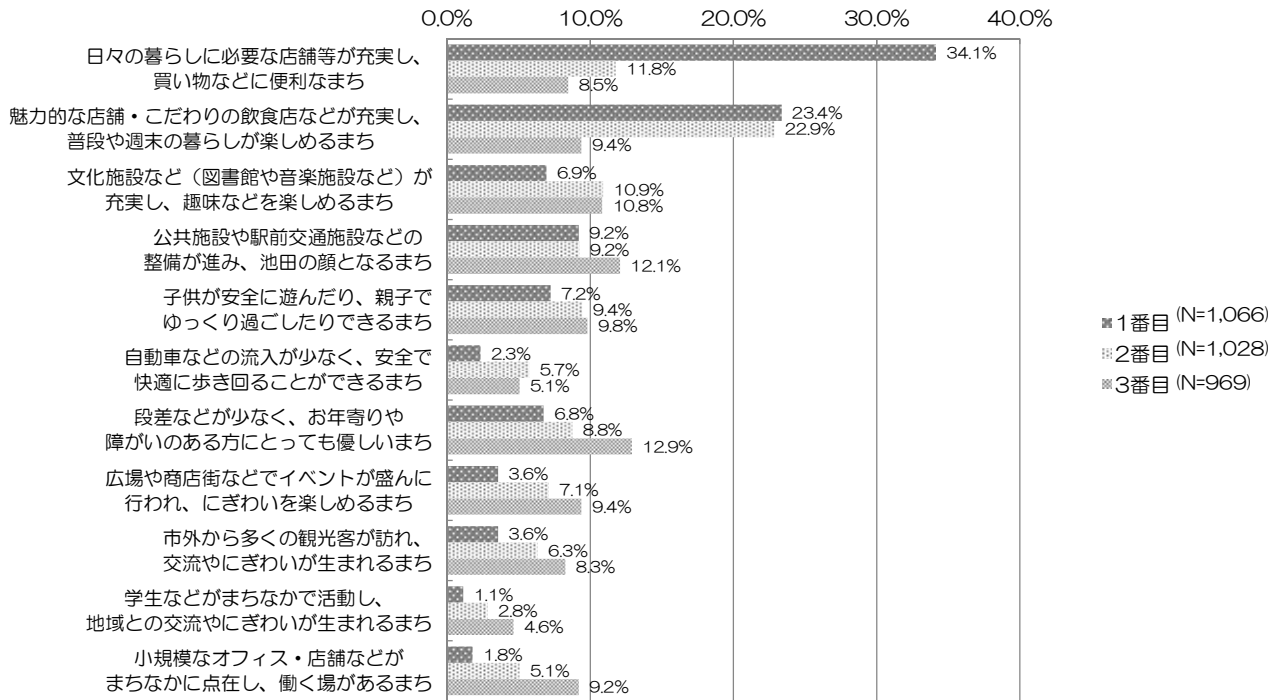
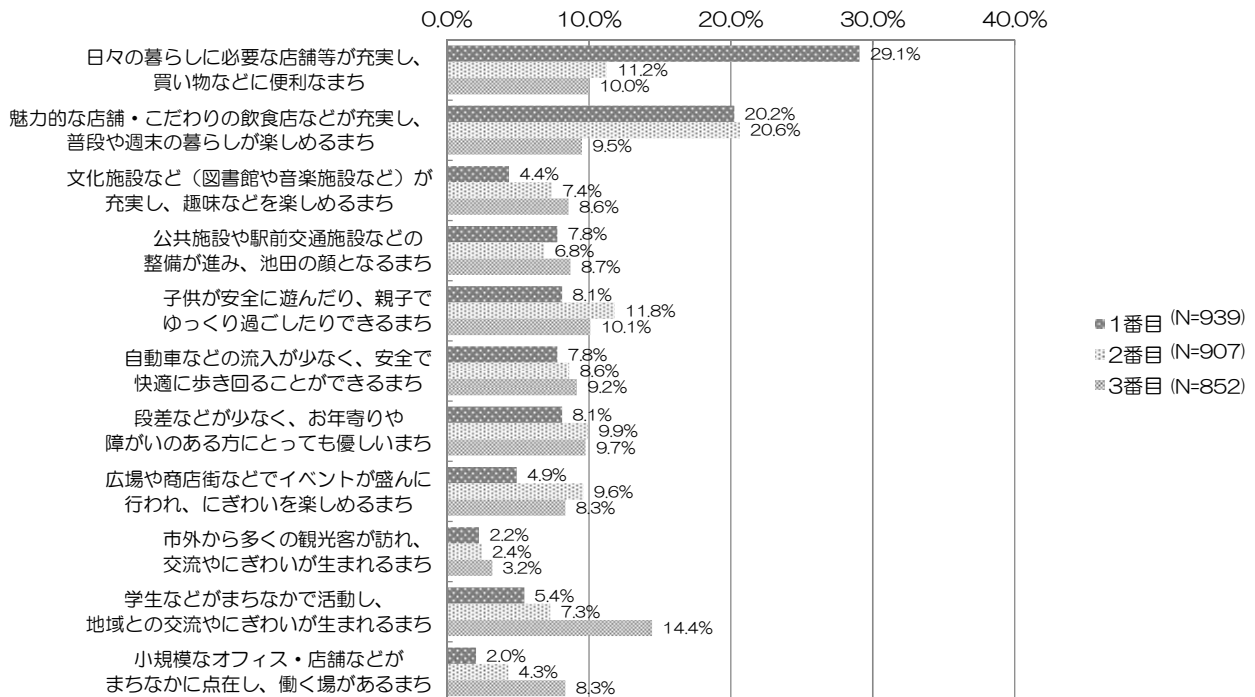


図 1-118 石橋駅周辺のまちづくりの方向性



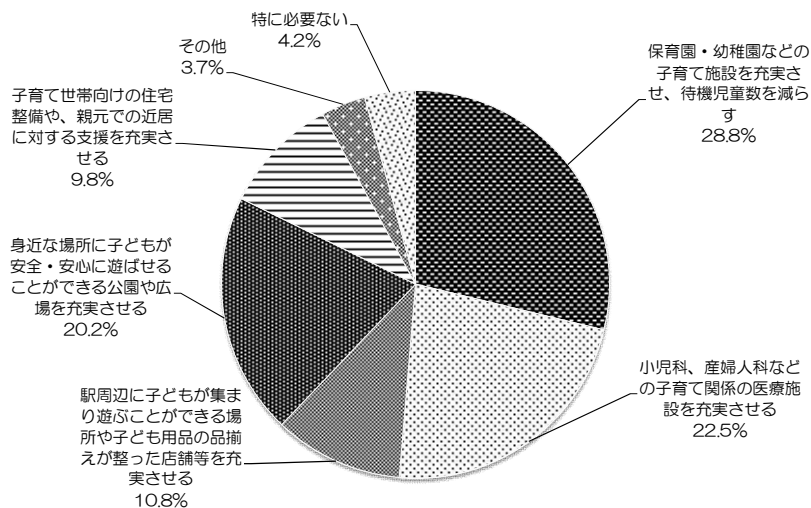
(1-7) 市全体で強化すべきまちづくり

- ・子育てについては、「保育園・幼稚園などの子育て施設を充実させ、待機児童数を減らす」、「小児科、産婦人科などの子育て関係の医療施設を充実させる」、「身近な場所に子どもが安全・安心に遊ばせることができる公園や広場を充実させる」といった順に高くなっています。(図 1-119)
- ・教育環境として充実させる点としては、「教育に資する施設(図書館など)を充実・強化する」、「安心して通学できる通学環境づくり(通学路の車両防護柵の整備など)に取り組む」が多く両方で全体の半数となっています。(図 1-120)
- ・人口減少・高齢化における持続的なまちづくりとしては、「病院や駅前などに行きやすいよう公共交通網の維持や利便性の向上を図る」、「次の世代の住まい手である子育て世帯等の定住に力を入れる」が総合的に高くなっていますが、優先順位を1番目に挙げられているものは、「駅周辺の集積をさらに高め、居住者や来街者にとって魅力あるまちなかを創る」が最も高くなっています。(図 1-121)

①子育て環境

Q: 今後、さらに子育て環境を向上させ、あなたの次の世代も池田市に住んでもらえるために、まちづくりの面でどのような点を特に強化していけば良いと思いますか。

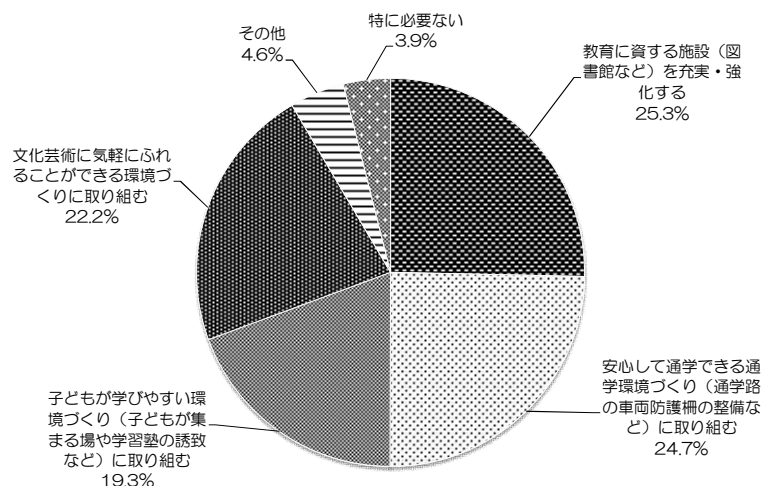
図 1-119 子育て環境で強化すること (N=1,021)



②教育環境

Q: 今後、さらに教育環境を向上させていくために、まちづくりの面でどのような点を特に強化していけば良いと思いますか。

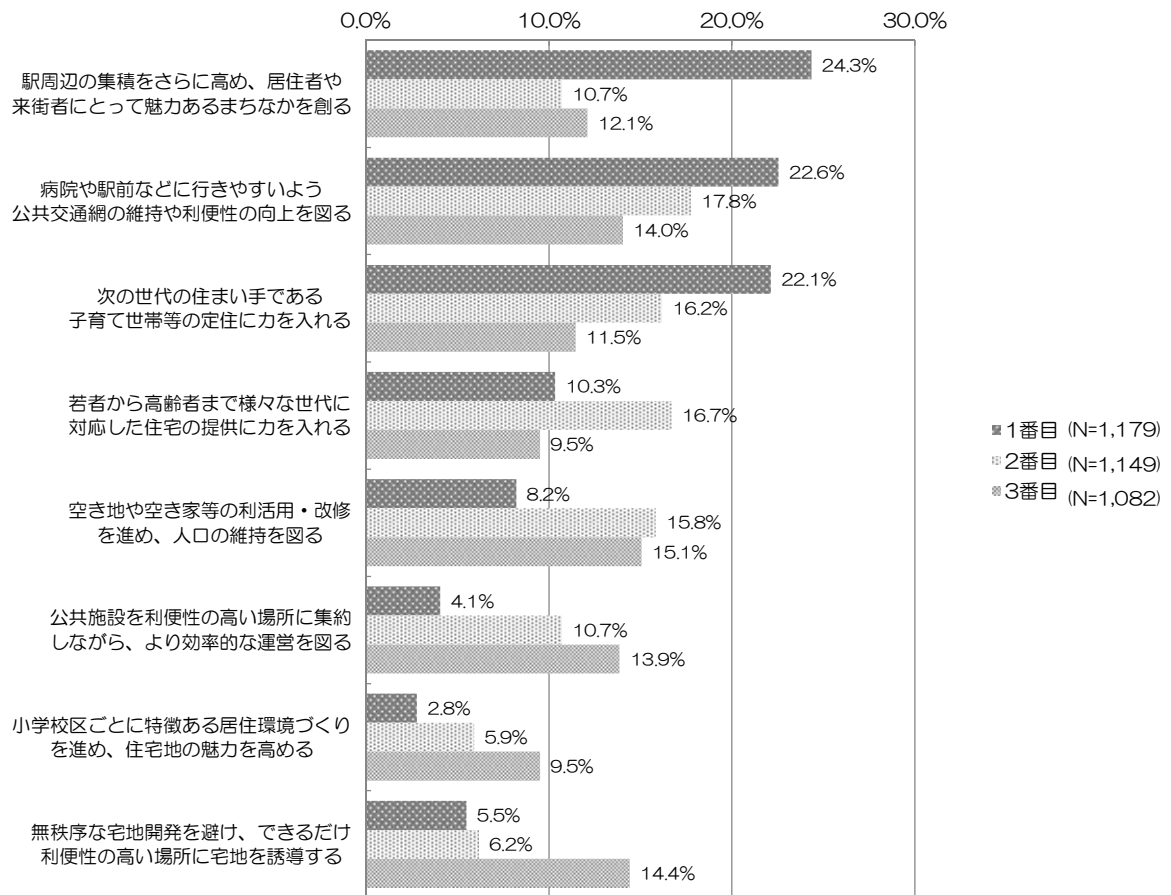
図 1-120 教育環境で強化すること (N=1,097)



③人口減少・高齢化に備えたまちづくり

Q：池田市では将来的に人口減少や一層の少子高齢化が見込まれています。それに伴い、税金なども減少が見込まれる中、都市として持続的に経営していくために、今後の池田市で取り組んでいくべきまちづくりについて、優先順位をつけてお答え下さい。

図 1-121 人口減少・高齢化に備えた取り組むべきこと



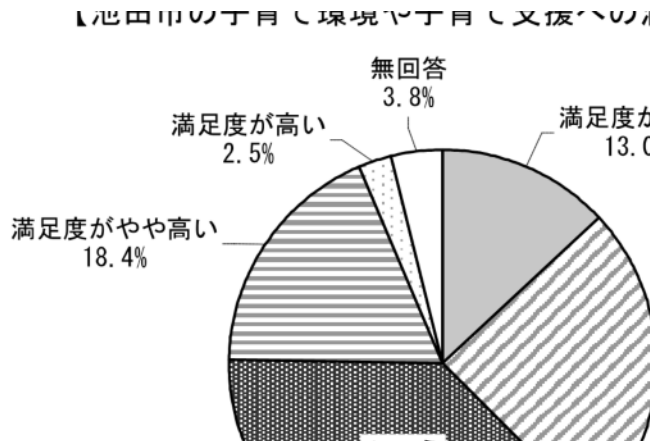
(2) 子育て関係の市民意向について

市が平成 26 (2014) 年 3 月に公表した「次世代育成支援に関するニーズ等調査報告書」において、本市の子育て環境や子育て支援についての市民意向がまとめられています。

Q : 池田市における子育て環境や子育て支援への満足度について

「ふつう」が 37.7% で最も多く、「満足度が低い」(13.0%) と「満足度がやや低い」(24.6%) をあわせた『満足度が低い』が 37.6%、「満足度がやや高い」(18.4%) と「満足度が高い」(2.5%) をあわせた『満足度が高い』は 20.9% となっています。

図 1-122 子育て環境や子育て支援への満足度 (N=1,150)

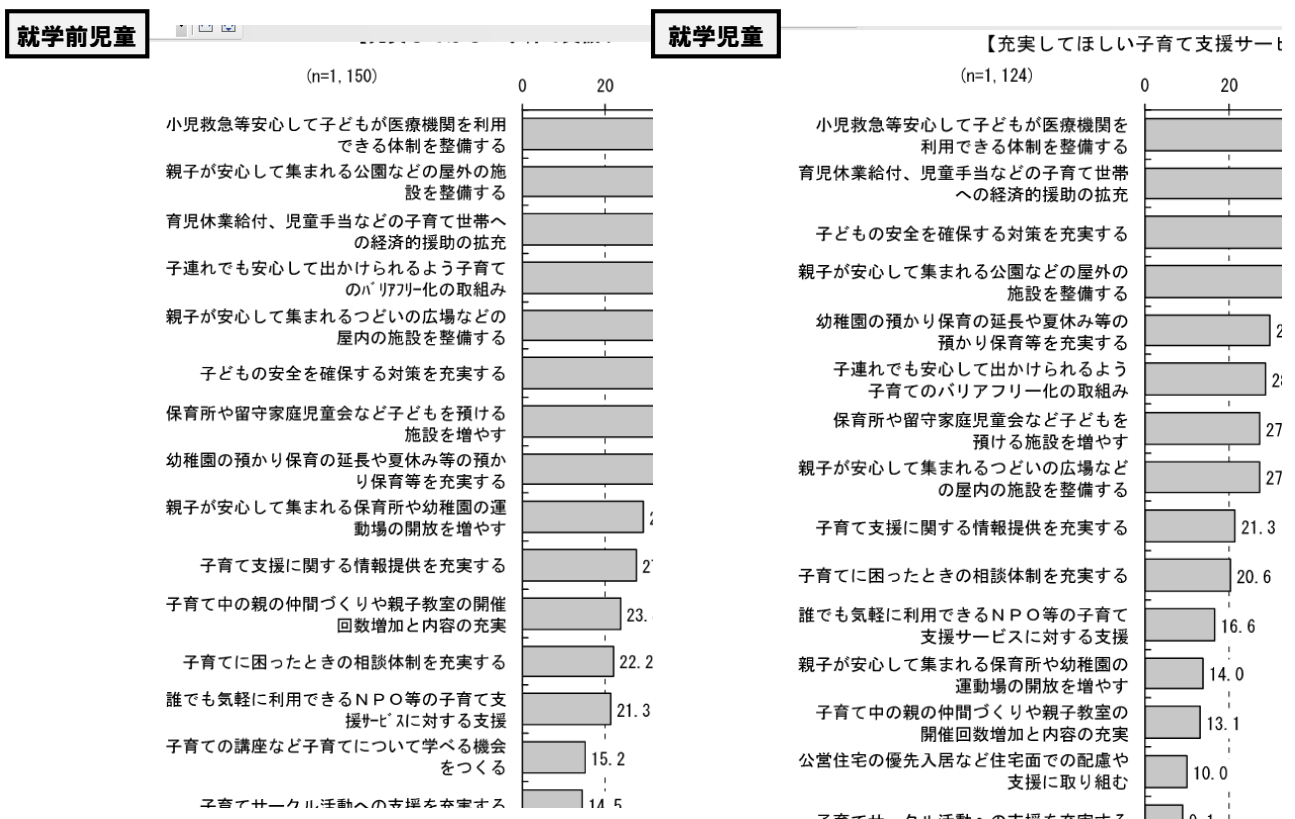


Q : 充実してほしい子育て支援サービスについて

就学前児童においては、「安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備」が最も多く、次いで「公園などの屋外施設の整備」「子育て世帯への経済的援助の拡充」「子育てのバリアフリー化の取り組み」が挙げられています。

就学児童においても、「安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備」が最も多く、次いで「子育て世帯への経済的援助の拡充」「子どもの安全を確保する対策の充実」「公園などの屋外施設の整備」と続きます。

図 1-123 充実が必要な子育て支援サービス



4 池田市における都市構造上の課題

1-1 人口	<ul style="list-style-type: none"> 人口は1995年以降約10万人でほぼ横ばいで推移しているが、高齢化率は増加。 年齢5歳階級別で見ると、25～29歳と30～34歳の転出が多い。 結婚や子育てのタイミングでの転出が見られる。 人口集中地区（DID）は近年微減傾向、伏尾台は人口密度減が顕在化。
1-2 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の多くは、住宅を中心とする一般市街地となっており、鉄道駅や国道176号沿道等を中心に商業業務地が、市南部、西部の一部に工業地が分布。明快な土地利用が形成。 市街地の広い範囲にわたって空き家が多く分布。
1-3 都市機能	<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設は駅の近傍に集積。その他生活利便施設は市内に広く分布。 小売業店舗数、従業員数、年間商品販売額、売場面積の駅周辺対全市シェアは減少傾向。 商業中心性指標は周辺市と比べると低い。大型店が隣接市に立地し、市外へ流出傾向。 保育所数、在所児数は増加傾向も、幼稚園数、在園者数は近年減少に転じる。 小学校児童数は、直近15年ほど、ほぼ横ばいで推移しているが、学校により大きく増減の差。 池田駅を訪れる観光客の回遊性が低い。 石橋駅は学生も多くにぎわいを見せているが、交流できる公共スペースが少ない。
1-4 交通	<ul style="list-style-type: none"> バス路線は市内に広く整備されている。 路線バス利用者数は減少傾向にある。 徒歩で移動する人の割合が高いことが特徴も、バス交通は3%ほどと低い水準。
1-5 災害	<ul style="list-style-type: none"> 河川氾濫に伴う浸水被害エリアの他、五月山山麓などの土砂災害警戒区域に指定されている。
1-6 財政	<ul style="list-style-type: none"> 扶助費割合が増加し続けると20年後には投資的経費が確保できなくなる可能性がある。 公共施設等の保有量を維持し続けることは困難、総延床面積の見直しが必要。
2 将来 見通し	<ul style="list-style-type: none"> 2010年の104千人をピークに人口は減少、2040年には92千人に減少する見込み。 生産年齢人口が約61%（2015年）→約53%（2040年）、老年人口が約26%（2015年）→約36%（2040年）となり、高齢化が大きく進む。 カバー圏人口を比較すると、3,000人以上のバス停は2015年の38%から2040年には20%へと約半減、一方で3,000人未満のバス停が増加。 コミュニティ施設（会館、共同利用施設、公民館）、小学校も同様に、カバー圏人口が減少し、施設の維持が困難となることが懸念。
3 市民意識	<ul style="list-style-type: none"> 日用品等は駅周辺の商業施設で購入、日常生活は便利だが、買い回り品等は市外の大規模商業施設に依存。 両駅とも、利便性の次に魅力ある店舗の充実が駅周辺で望まれる。 子育てしやすさや教育環境の充実度など、「不満」という回答もうかがえるものの、全体を通して「普通」の占める割合が高い。 身近な住宅地で生じている問題として、「高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えており、まちの活力が弱まっている」が挙げられる。 「駅周辺の集積をさらに高め、居住者や来街者にとって魅力あるまちなかを創る」「病院や駅前などに行きやすいよう公共交通網の維持や利便性の向上を図る」「次の世代の住まい手である子育て世帯等の定住に力を入れる」といった方向性が望まれる。 市の子育て環境や子育て支援について、『満足度が低い』（37.6%）が『満足度が高い』（20.9%）を上回っており、医療機関体制の整備や公園などの屋外施設の整備、子育てのバリアフリー化などが要望として挙げられる。

課題① 良好な住宅地を維持していく上での課題

少子・高齢化等による人口減少を背景に、利便性の高い良好な住宅地の維持が困難になるおそれがある

- 現状は、高い利便性を背景に良好な住宅地を形成しているが、人口減少等の将来見通しから、現在の施設・サービスの維持が困難となるおそれがある。
- 人口減少・高齢化による住宅地の活力低下が懸念されており、伏尾台で一部顕在化している。このまま放置することで、全市的に拡大するおそれもある。

〈課題を放置した場合の「負のスパイラル」のシナリオ〉

- 鉄道駅から離れた戸建住宅地等を皮切りに全市で高齢化・人口減少が急激に進行。
- 空き家増加や身近な生活利便施設の撤退など、住宅地のスポンジ化現象が顕在化。
- バス交通の減便や路線の縮小などバス交通の利便性が低下。

→コミュニティの維持が困難となる恐れ。

課題② 都市機能に磨きをかけ拠点性を高めていく上での課題

駅前の陳腐化とともに、市外への購買行動の流出が進行、鉄道駅周辺の活力が低下するおそれがある

- 現状は、2つの鉄道駅周辺に都市機能が集積し、日常的な利用は満足しているが、駅前の商業集積状況は減退傾向で、購買行動は市外の大規模商業施設に依存傾向が顕著である。
- 商業・業務ビルや駅前の再開発ビル、公共空間の老朽化が進行しており、住宅地の人口減少もあいまって、活力が低下するおそれがある。

〈課題を放置した場合の「負のスパイラル」のシナリオ〉

- 鉄道駅周辺の機能更新が進まないことで駅前の陳腐化が進行。
- 住民ニーズとのギャップが拡大し、周辺都市や郊外の商業施設利用が加速化。
- 市民の駅前市街地の利用が離れ、空洞化が進行。

→駅周辺の市街地が衰退。

総体として近隣都市との相対的魅力が低下し、若い世代の獲得が困難となり、人口減少が加速化
↓
「選ばれない住宅都市」へ転落することが懸念される